

（仮称）旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 （仮称）都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業

環境影響評価方法書説明会

令和2年8月

横浜市

1

説明内容

- 環境影響評価制度について
- （仮称）旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
環境影響評価方法書の説明
- （仮称）都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業
環境影響評価方法書の説明
- 縦覧及び意見書の提出について

説明内容

- 環境影響評価制度について
- (仮称) 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
環境影響評価方法書の説明
- (仮称) 都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業
環境影響評価方法書の説明
- 縦覧及び意見書の提出について

3

環境影響評価とは

環境影響評価（環境アセスメント）制度

事業が環境に及ぼす影響について

- ・ 事前に調査、予測、評価
- ・ その結果を公表
- ・ 市民等から意見を聴くなどの手続きを実施

適切な環境保全対策等を検討し、
事業計画に反映させる制度

4

法アセスと条例アセス

事業種別や規模により、法アセスと条例アセスの2種類があります。

法アセス

環境影響評価法が対象とする事業

⇒土地区画整理事業が対象

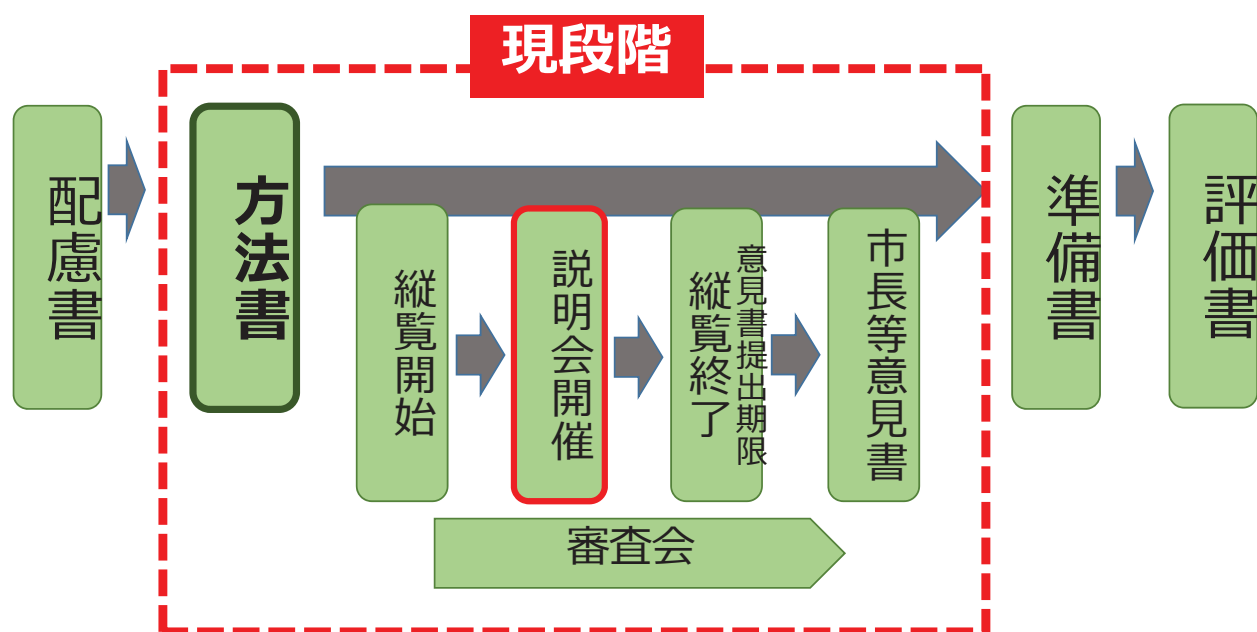
条例アセス

横浜市環境影響評価条例が対象とする事業

⇒交通整備事業が対象

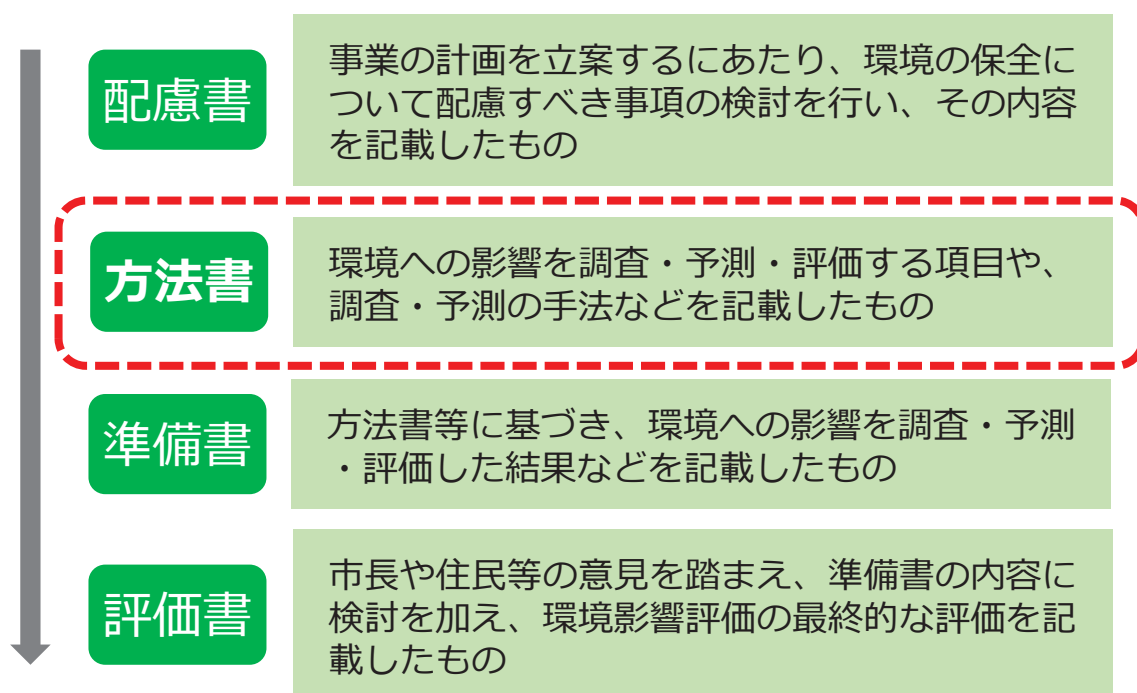
5

環境影響評価の手続



6

それぞれの図書の内容について



7

説明内容

- 環境影響評価制度について
- (仮称) 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
環境影響評価方法書の説明
- (仮称) 都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業
環境影響評価方法書の説明
- 縦覧及び意見書の提出について

8

(仮称) 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業 環境影響評価方法書

- 1 事業計画の概要
- 2 事業スケジュール
- 3 対象事業実施区域及びその周辺の概況
- 4 環境影響評価項目の選定
- 5 調査、予測及び評価の手法
- 6 方法書対象地域

9

1 事業計画の概要

10

事業計画の概要

方法書p. 1-1, p. 2-1

都市計画決定権者の名称 並びに 都市計画対象事業を実施 しようとする者の 氏名及び住所	【都市計画決定権者】 横浜市 【対象事業を実施しようとする者】 名称 横浜市 代表者の氏名 林 文子 主たる事務所の所在地 神奈川県横浜市中区本町 6 丁目50番地の10
事業の名称	(仮称) 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
都市計画対象事業の 種類・規模	種類：土地区画整理事業 規模：面積 約242ha

11

対象事業実施区域の位置

方法書p. 2-1~2-2



12



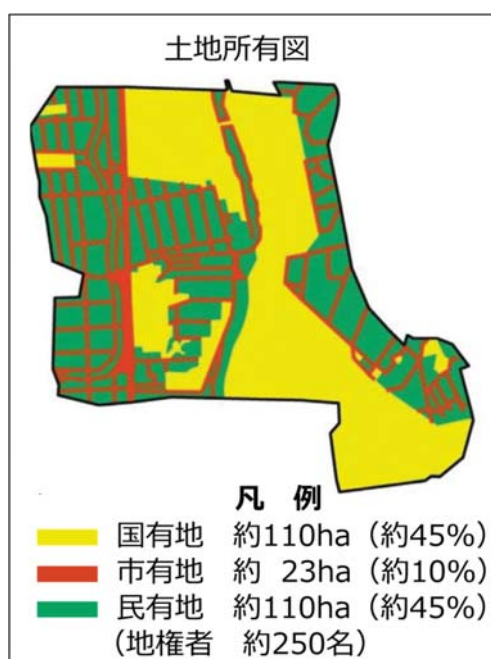
面積：約242ha

13

背景及び経緯

方法書p. 2-13～2-23

約45%を占めている地権者と土地利用を検討



14

郊外部の新たな活性化拠点の形成に向け次の4つのゾーンを配置



凡 例

- 対象事業実施区域
- ◄ ● ● ● ► 主要な区域内道路

各ゾーンが連携することにより、人やものが行き交い、将来的には年間1,500万人が訪れ、地区全体の価値向上とともに、環境と共生した郊外部の新たな活性化拠点を目指します。

15

①農業振興ゾーン

営農を希望する地権者を中心に新たな都市農業を行うエリア

②公園・防災ゾーン

国有地を活用し、公園や防災施設等を整備するエリア

③観光・賑わいゾーン

広大な土地を最大限に生かし、集客力のある施設を誘致することで賑わいを創出するエリア

④物流ゾーン

交通の利便性を生かし、新しい物流を行うエリア

土地利用計画の方針－土地利用ゾーンの配置の考え方

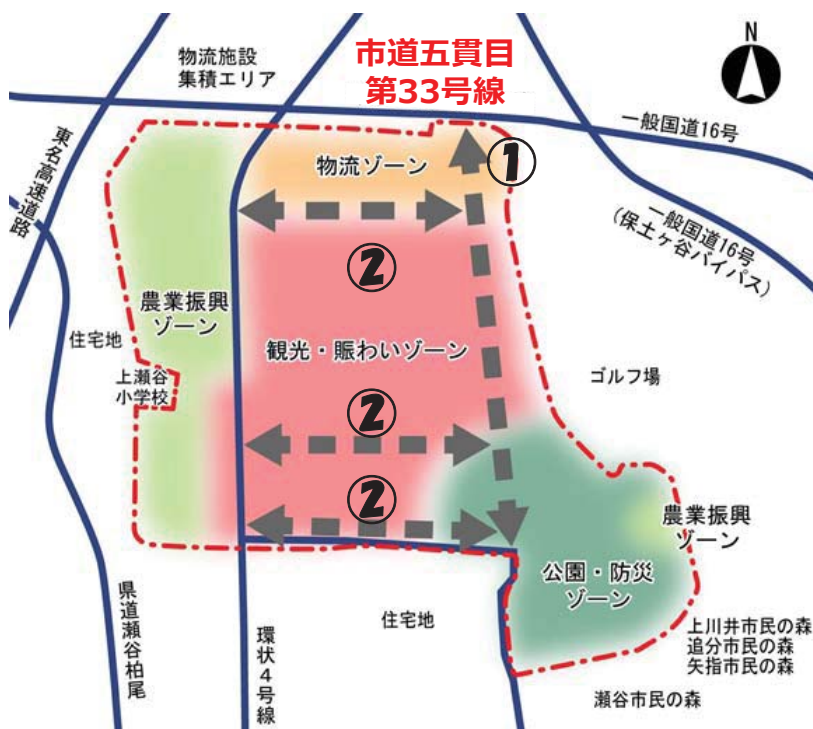


凡 例

- 対象事業実施区域
- ◄ ● ● ● ► 主要な区域内道路

- 現在のまとまりのある農地をいかし旭区、瀬谷区それぞれに「農業振興ゾーン」を配置
- 瀬谷市民の森や和泉川源流域などの現況の環境に配慮し、「公園・防災ゾーン」を南東側に配置
- 「観光・賑わいゾーン」は可能な限り住宅地と離隔をもって配置
- 「物流ゾーン」は物流施設集積エリア周辺である北側へ配置し、通学路の安全性等を考慮し、環状4号線東側へ配置

16



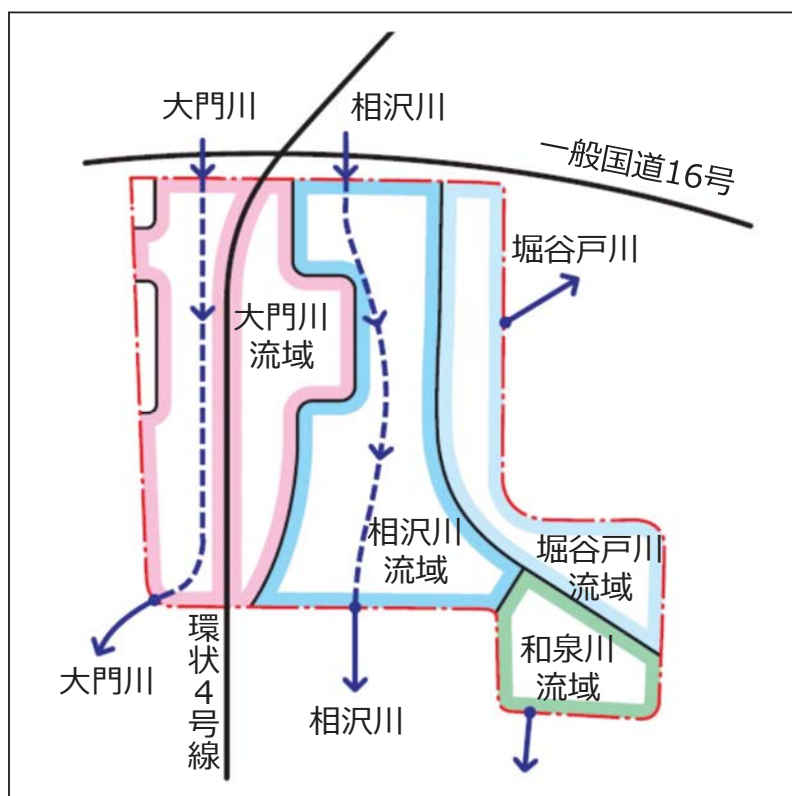
- ① 市道五貫目第33号線に接続する南北方面の区域内道路
- ② 環状4号線と①をつなぐ3本の東西方面の区域内道路

凡 例

 対象事業実施区域

◀...▶ 主要な区域内道路

17



■ 調整池は4つの流域ごとに少なくとも1箇所は配置

■ 污水排水は公共下水道に接続

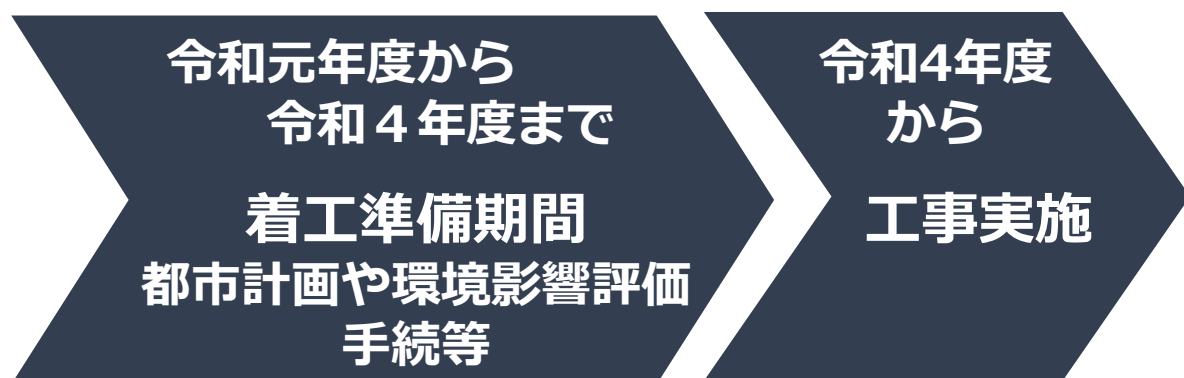
18

2 事業スケジュール

19

事業スケジュール

方法書p. 2-8



20

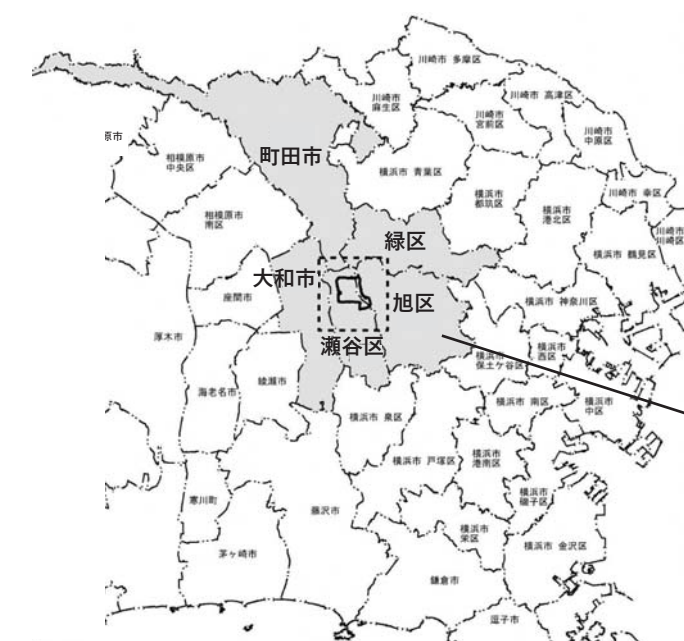
3 対象事業実施区域及び その周辺の概況

21

対象事業実施区域及びその周辺の概況

方法書p. 3-1

■ 調査対象地域の設定



調査区域

対象事業実施区域を中心とした約4km四方を含む区域

自然的社会的状況に関する情報の収集範囲

調査対象地域

神奈川県横浜市旭区、
同瀬谷区、同緑区
神奈川県大和市
東京都町田市

統計データの情報収集
範囲

凡 例

対象事業実施区域 調査対象地域 市界 界
調査区域 都県界 区界 界



0 2.5 5 10 km

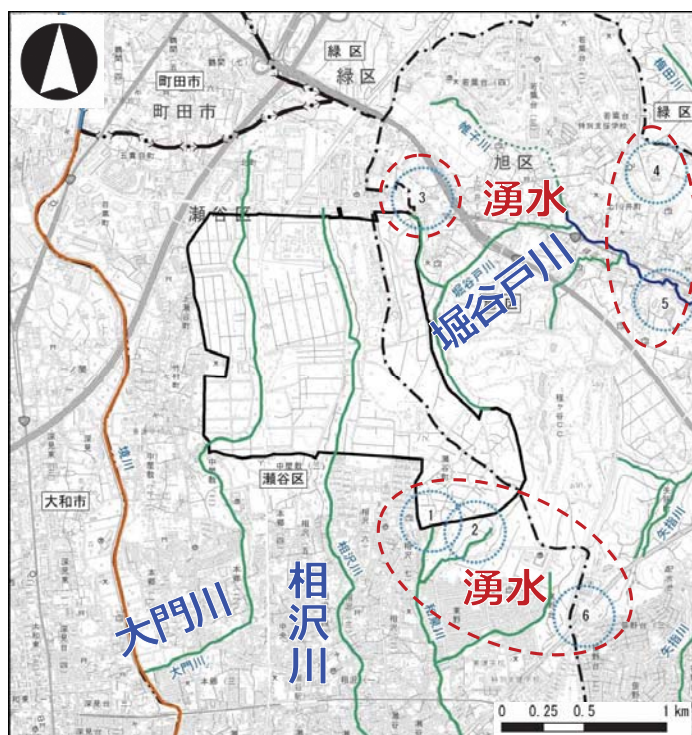
22

自然的状況、社会的状況について主として既存資料の収集整理により調査を実施することにより、地域特性を把握し、環境影響評価項目の選定等に用いました。

【自然的状況】

- 1 大気環境の状況
- 2 水環境の状況
- 3 土壌及び地盤の状況
- 4 地形及び地質の状況
- 5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況
- 6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一河川及び湧水の分布状況



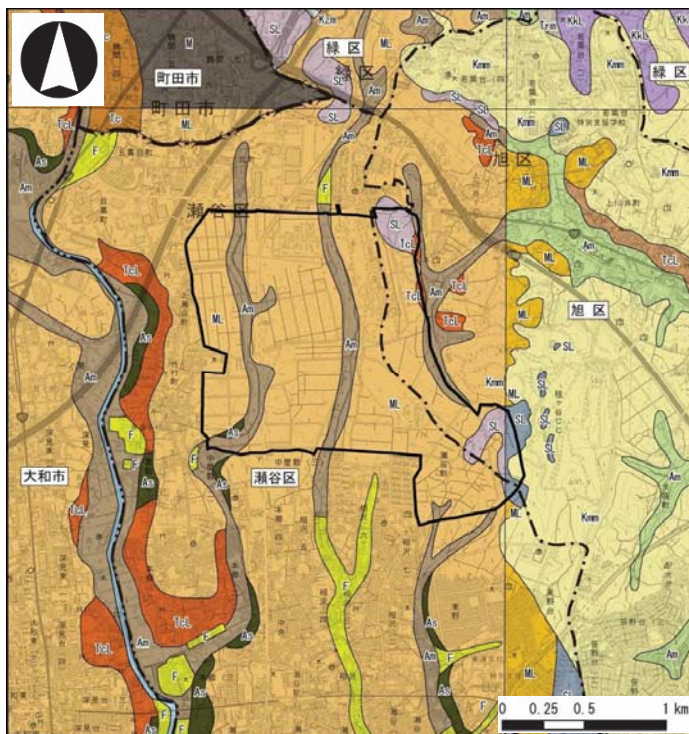
- 対象事業実施区域には、大門川、相沢川及び堀谷戸川が流れています。

凡 例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 二級河川（県管理区間）
- 二級河川（都管理区間）
- 二級河川（県管理市施行・維持区間）
- その他（横浜市管理）
- 公共下水道
- 湧水の位置

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一地質の状況

方法書p. 3-33、3-37



- 対象事業実施区域には、武蔵野ローム層、相模層群・下末吉ローム層、立川ローム層、沖積層等が分布しています。

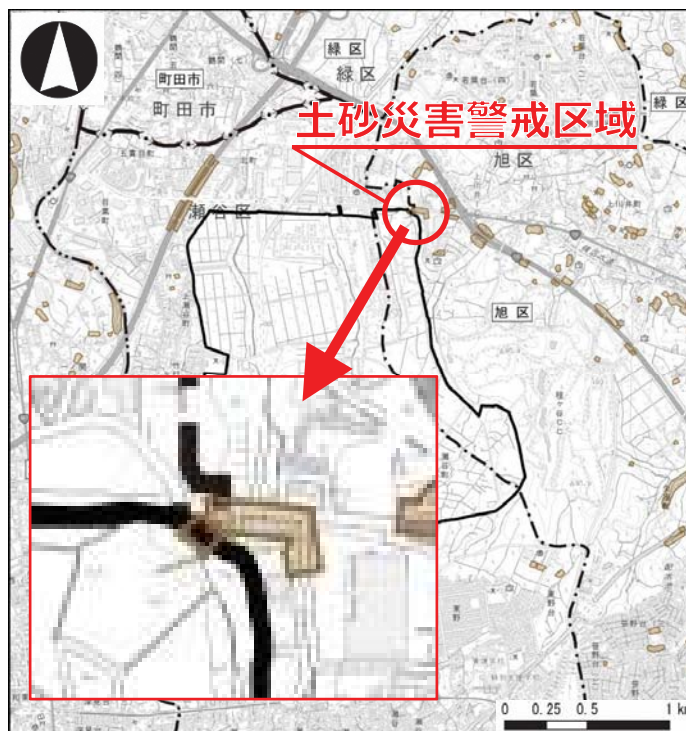
凡 例

 	対象事業実施区域	・	市界
 	都県界	 	区界
ML	武蔵野ローム層	SL	相模層群・下末吉ローム層
TeL	立川ローム層	Am	沖積層（泥を主とし砂を含む）
As	沖積層（砂・礫を主とし泥を含む）	Trm	上総層群・鶴川層
To	立川ローム層・立川段丘堆積物	Knm	上総層群・上里川層
TeL	立川ローム層・立川礫層	Am	低湿地堆積物
ML	武蔵野ローム層・武蔵野段丘堆積物	F	埋土
ML	武蔵野ローム層・武蔵野礫層	F	盛土
SL	相模層群・下末吉ローム層・下末吉層	Kkl	相模層群・山王台ローム層・上倉田層
Kkl	相模層群・山王台ローム層・上倉田層	Kzm	上総層群
Kzm	上総層群	 	水部分
		 	なし

25

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一急傾斜地崩壊危険区域及び土砂災害警戒区域

方法書p. 3-40～3-41



- 対象事業実施区域には、急傾斜地崩壊危険区域はありませんが、北東側の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。

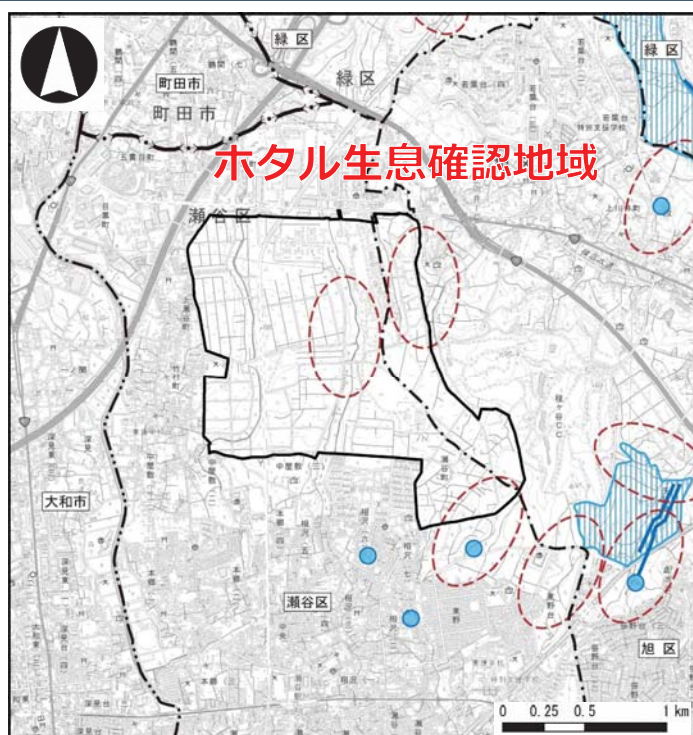
凡 例

 	対象事業実施区域
 	都県界
 	市界
 	区界
 	急傾斜地崩壊危険区域
 	土砂災害警戒区域

26

対象事業実施区域及びその周辺の概況 —動物の注目すべき生息地

方法書p. 3-71～3-74



- 対象事業実施区域には「ホタル生息確認地域」が含まれています。

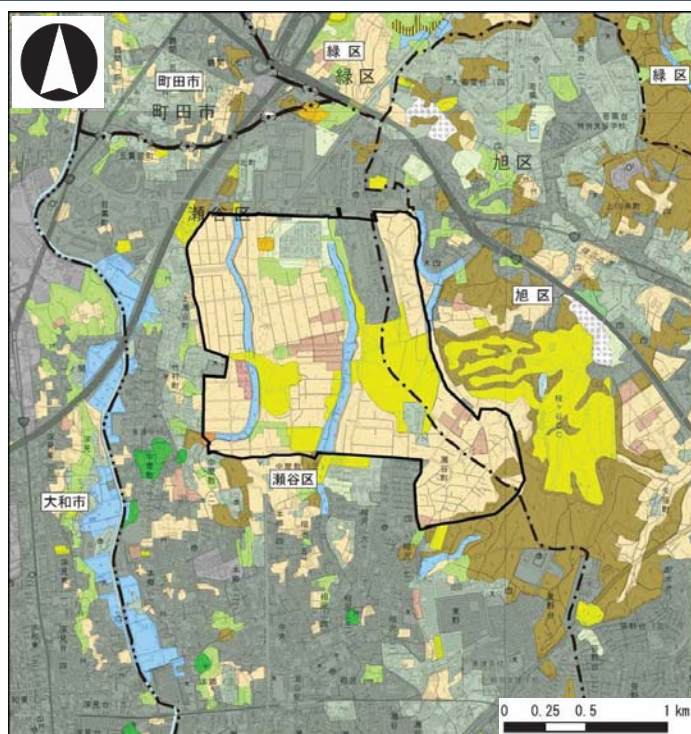
凡 例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- ホタル生息確認地域
- トンボ池等主なエコアップスポット (点のビオトープ)

27

対象事業実施区域及びその周辺の概況 —現存植生図

方法書p. 3-76～3-77



- 対象事業実施区域の現存植生は、主に畑雑草群落及びゴルフ場・芝地であり、他にクヌギ・コナラ群集、低木群落、水田雑草群落、果樹園等が分布しています。

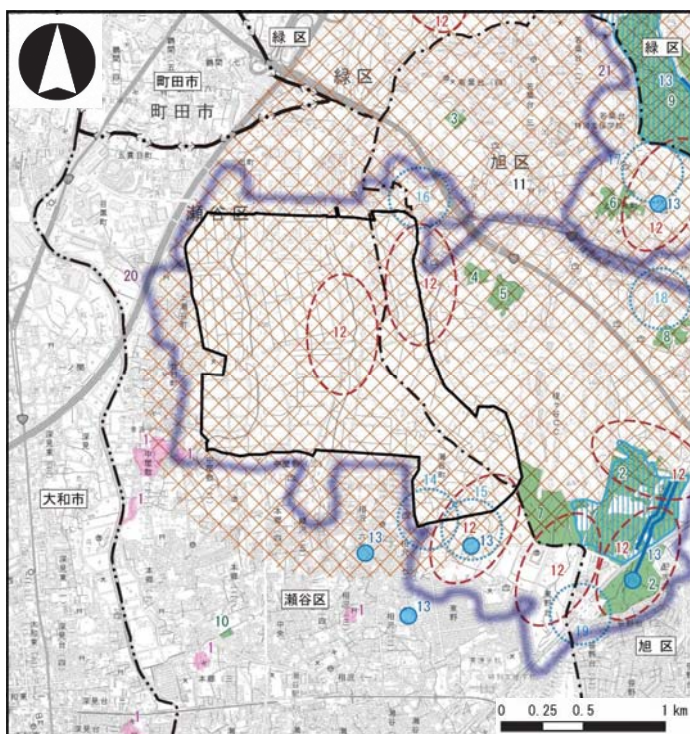
凡 例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 畑雑草群落
- ゴルフ場・芝地
- クヌギ・コナラ群集
- シラカン群集
- シラカン屋敷林
- コナラ群落 (V I I)
- チガヤーススキ群落
- スギ・ヒノキ・サウラ植林
- 竹林
- 牧草地
- 路傍・空地雑草群落
- 低木群落
- 水田雑草群落
- 果樹園
- 常緑果樹園
- 市街地
- 緑の多い住宅地
- 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
- 工場地帯
- 造成地
- 開放水域

28

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一重要な自然環境のまとまりの場

方法書p. 3-93～3-94



- 対象事業実施区域には、生物多様性保全上重要な里地里山、ホタル生息確認地域、湧水、緑の10大拠点があります。

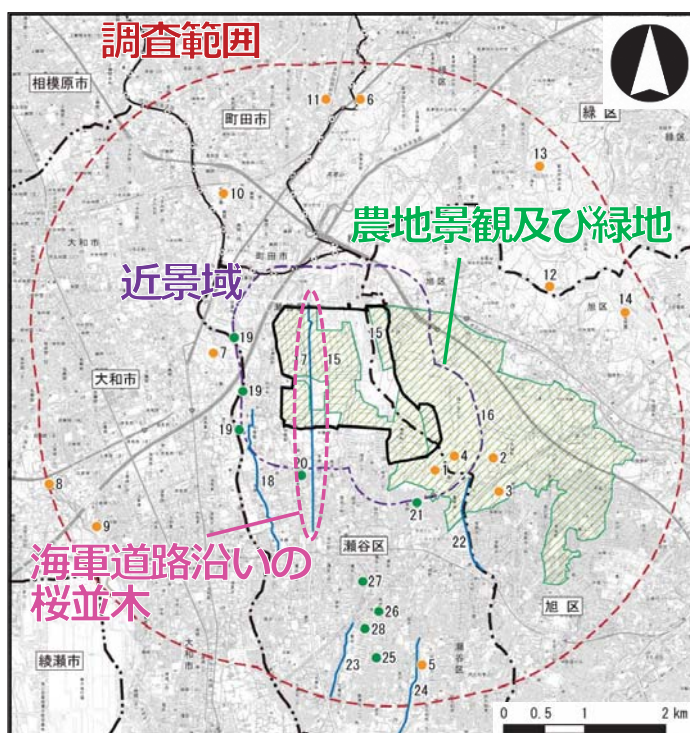
凡 例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 自然植生 植生自然度9
- 特別緑地保全地区
- 生物多様性保全上重要な里地里山
- ホタル生息確認地域
- トンボ池等主なエコアップスポット (点のビオトープ)
- 湧水の位置
- みどりの10大拠点

29

3 対象事業実施区域及びその周辺の概況 一主要な眺望点及び景観資源の状況

方法書p. 3-95～3-96



- 対象事業実施区域からおおむね3kmの範囲には、主要な眺望点として市民の森や公園などがあります。景観資源は、海軍道路沿いの桜並木や、農地景観、川井・矢指風致地区の緑地などがあります。

凡 例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 調査範囲 (事業実施想定区域から概ね3km圏)
- 近景域 (事業実施想定区域から概ね500m圏)
- 主要な眺望点
- 主要な景観資源

30

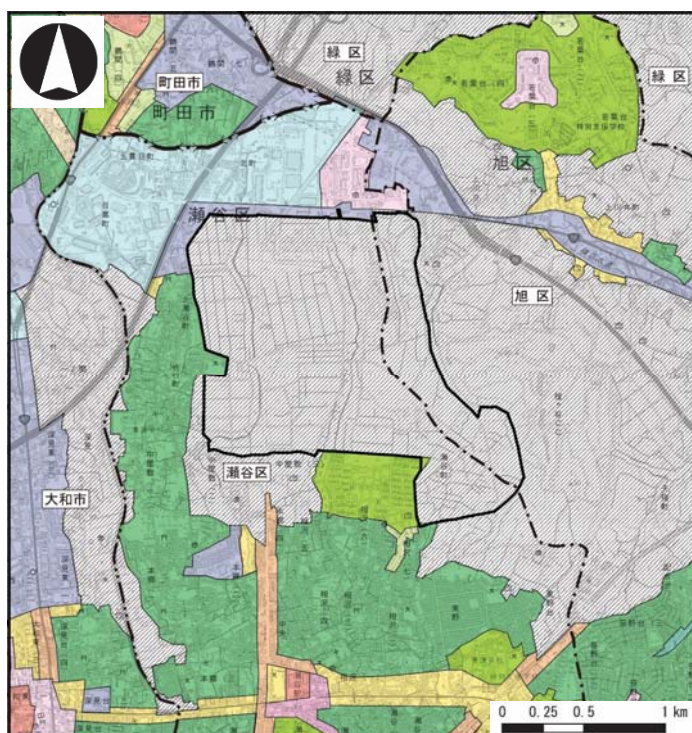
【社会的状況】

- 1 人口及び産業の状況
- 2 土地利用の状況
- 3 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況
- 4 交通の状況
- 5 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況
- 6 下水道の整備状況
- 7 環境の保全を目的として法令等により指定された地域
その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の
状況
- 8 文化財等の状況
- 9 その他の事項

31

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一土地利用状況

方法書p. 3-106～3-107、3-113



- 対象事業実施区域の大部分は、市街化調整区域に指定されています。

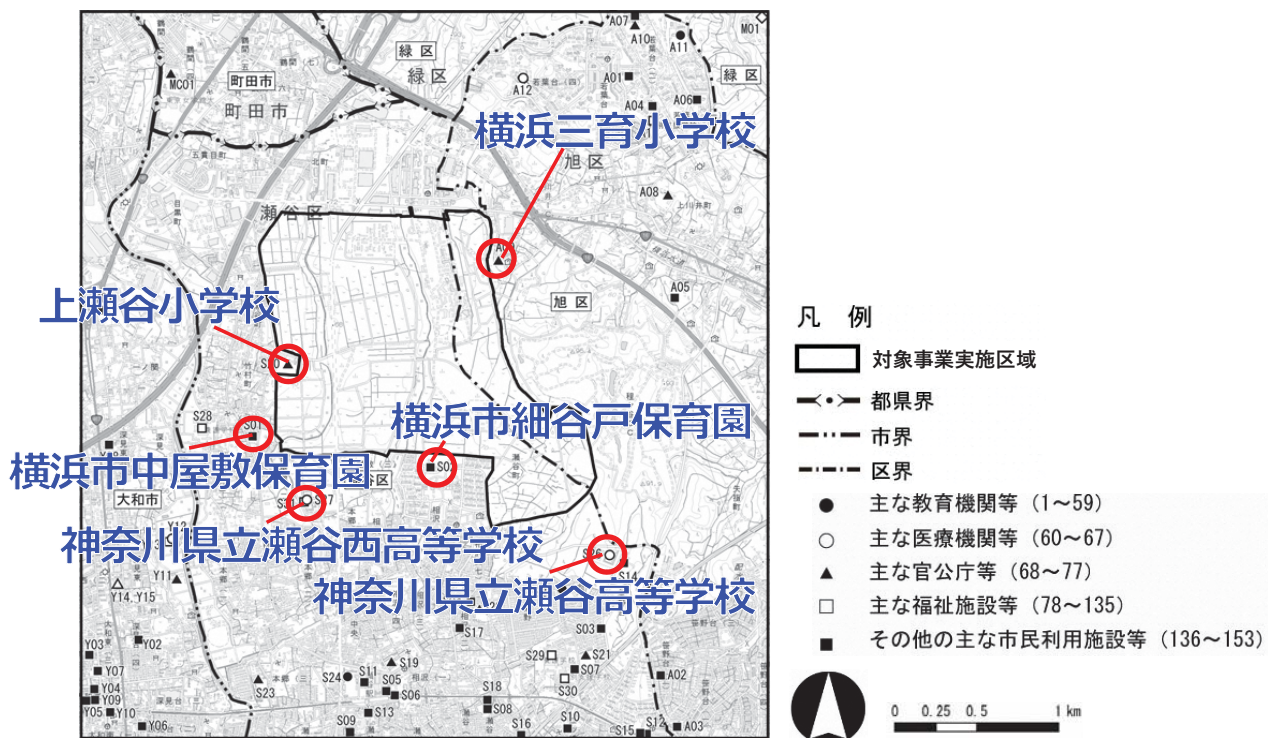
凡 例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 第1種低層住居専用地域
- 第2種低層住居専用地域
- 第1種中高層住居専用地域
- 第2種中高層住居専用地域
- 第1種住居地域
- 第2種住居地域
- 準住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域
- 市街化調整区域

32

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一配慮が特に必要な施設の分布状況（主な教育機関等）

方法書p. 3-129～3-131



33

対象事業実施区域及びその周辺の概況 一埋蔵文化財包蔵地の分布状況

方法書p. 3-151～3-155



- 対象事業実施区域内をはじめ、調査区域には、埋蔵文化財包蔵地があります。
- 種類は、古墳が1地点、散布地が8地点です。

- 凡 例**
- 対象事業実施区域
 - 都県界
 - 市界
 - 区界
 - 埋蔵文化財包蔵地



34

4 環境影響評価項目の選定

35

環境影響要因の抽出

方法書p. 7-1～7-2

● 工事の実施

影響要因の区分	抽出の理由
雨水の排水	・ 対象事業実施区域及びその周辺の河川へ雨水の排水を行います。
造成工事の実施	・ 地表（河道を含む。）を改変します。
建設機械の稼働	・ 建設機械が対象事業実施区域で稼働します。
資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	・ 資材及び機械の運搬に用いる車両が、周辺道路を運行します。

36

● 土地又は工作物の存在及び供用

影響要因の区分	抽出の理由
敷地の存在（土地の改変）	・ 造成や舗装等による地表面の被覆により、土地が改変されます。
構造物の存在	・ 公共施設による構造物を整備します。
関係車両の走行	・ 従業員や来客者などの車両が周辺道路を走行します。

- 将来的には、年間1500万人が訪れることを見込んでいることから、「関係車両の走行」についても抽出
- 観光・賑わいゾーンや物流ゾーンに建設される上物については、その施設の規模が市条例の規模要件を満たす場合は、市条例に基づく環境影響評価が実施される予定

37

環境影響評価項目の選定－大気環境

方法書 p. 7-3

環境要素の区分 影響要因の区分				工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
				雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在（土地の改変）	構造物の存在	関係車両の走行
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気環境	大気質	二酸化窒素 ^{注4}			○	○			○
			浮遊粒子状物質 ^{注4}			○	○			○
			粉じん等			○	○			
		騒音	騒音			○	○			○
		振動	振動			○	○			○

- 注1：○：参考項目の中から選定した項目
 ◎：参考項目ではないが選定した項目（市条例指針に基づく項目を含む。）
 ×：参考項目であるが、影響が想定されないため、選定しなかった項目

注2：■は、参考項目

注3：参考項目にはないが、基本的事項の別表に掲載されている項目

注4：参考項目や基本的事項にない項目で、市条例指針に基づく項目

38

環境影響評価項目の選定－水環境

方法書 p. 7-3

環境要素の区分				影響要因の区分				工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
								雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	水環境	水質(地下水の水質を除く。)	水の濁り		○									
			水の汚れ ^{注4}		◎									
		底質 ^{注3}	公共用水域の底質			◎								
		地下水 ^{注3}	地下水の水質									◎		
		その他の水環境に係る環境要素	湧水の流量 ^{注4}			◎						◎		
			河川の形態、流量 ^{注4}									◎		

注：脚注はスライド38と同じです。

39

環境影響評価項目の選定－土壌に係る環境その他の環境 動物、植物及び生態系

方法書 p. 7-3

環境要素の区分				影響要因の区分				工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
								雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	土壌に係る環境その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質									×		
		地盤 ^{注3}	地盤の安定性(土地の安定性)									◎		
		土壌 ^{注3}	土壌汚染			◎								
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全		動物(水生生物を含む。)	重要な種及び注目すべき生息地			◎						○		
		植物	重要な種及び群落			◎						○		
		生態系	地域を特徴づける生態系			◎						○		

注：脚注はスライド38と同じです。

40

環境影響評価項目の選定—人と自然との豊かな触れ合い 環境への負荷の量の程度

方法書 p. 7-4

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
			雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
人と自然との豊かな触れ合い	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○	○	
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場				◎	○	○	◎
環境への負荷の程度	廃棄物等	建設工事に伴う副産物		○					
	温室効果ガス	温室効果ガス			◎	◎			◎

注：脚注はスライド38と同じです。

41

環境影響評価項目の選定—その他の項目

方法書 p. 7-4

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施				土地又は工作物の存在及び供用		
			雨水の排水	造成工事の実施	建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	敷地の存在(土地の改変)	構造物の存在	関係車両の走行
その他の項目	地域社会 ^{注4}	交通混雑				◎			◎
		歩行者の安全				◎			◎
	文化財等 ^{注4}	文化財等		◎					

注：脚注はスライド38と同じです。

42

5 調査、予測及び評価の手法

43

大気質

方法書p. 7-9～21

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

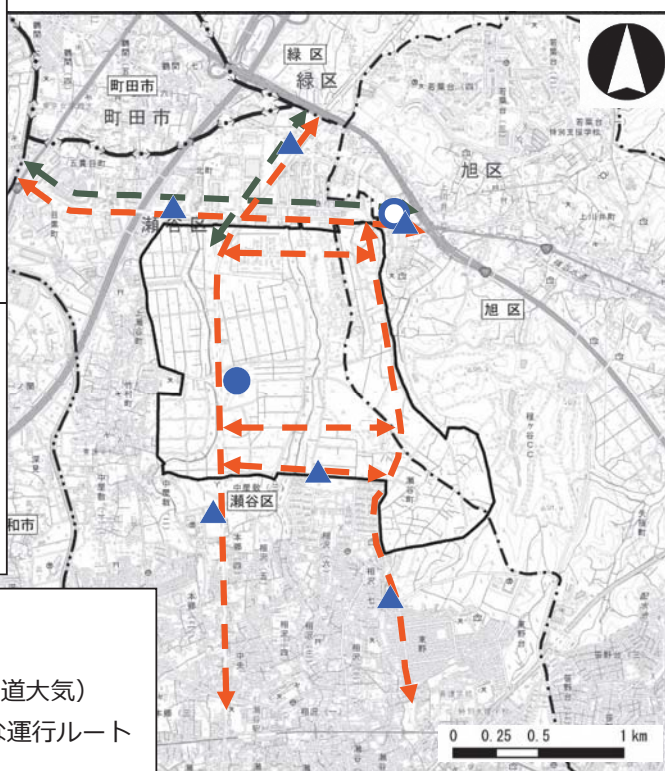
- ・大気質の状況（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）
- ・気象の状況 ・交通量の状況
- ・道路構造の状況

【予測内容】

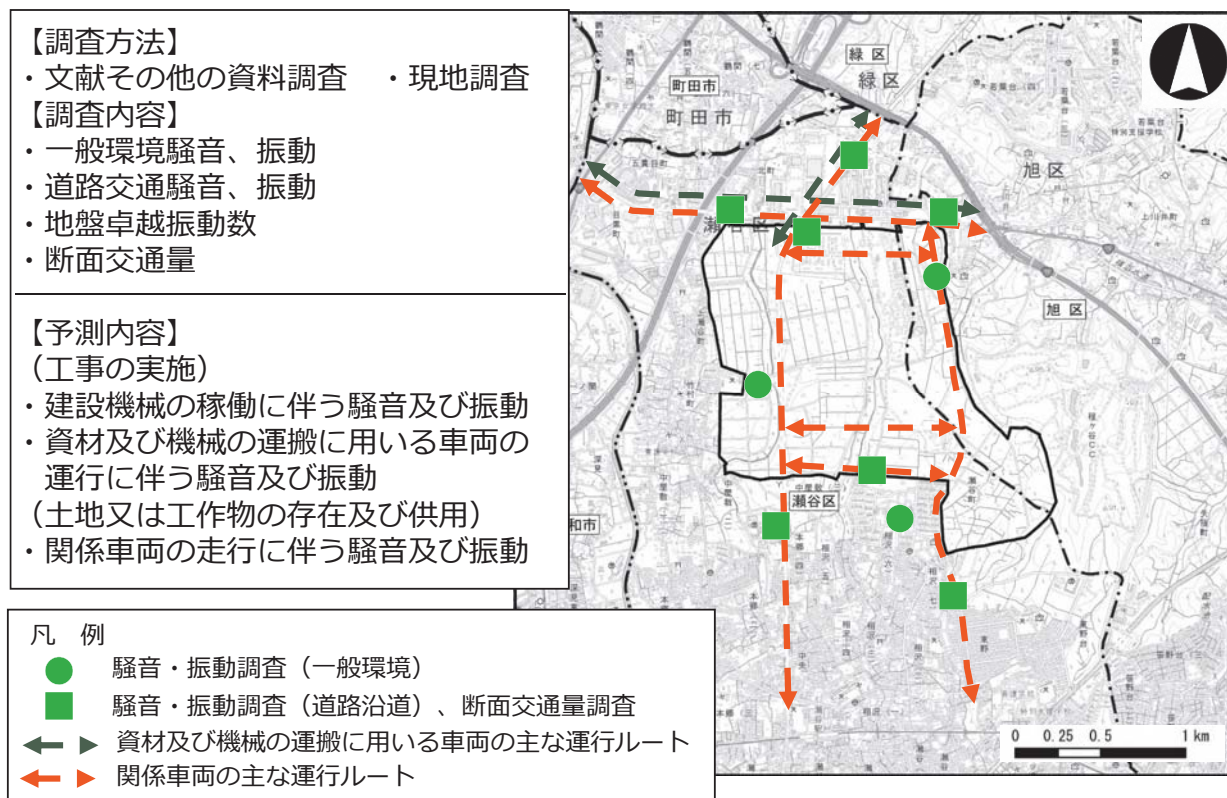
- （工事の実施）
- ・建設機械の稼働に伴う大気質
- ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う大気質
- （土地又は工作物の存在及び供用）
- ・関係車両の走行に伴う大気質

凡 例

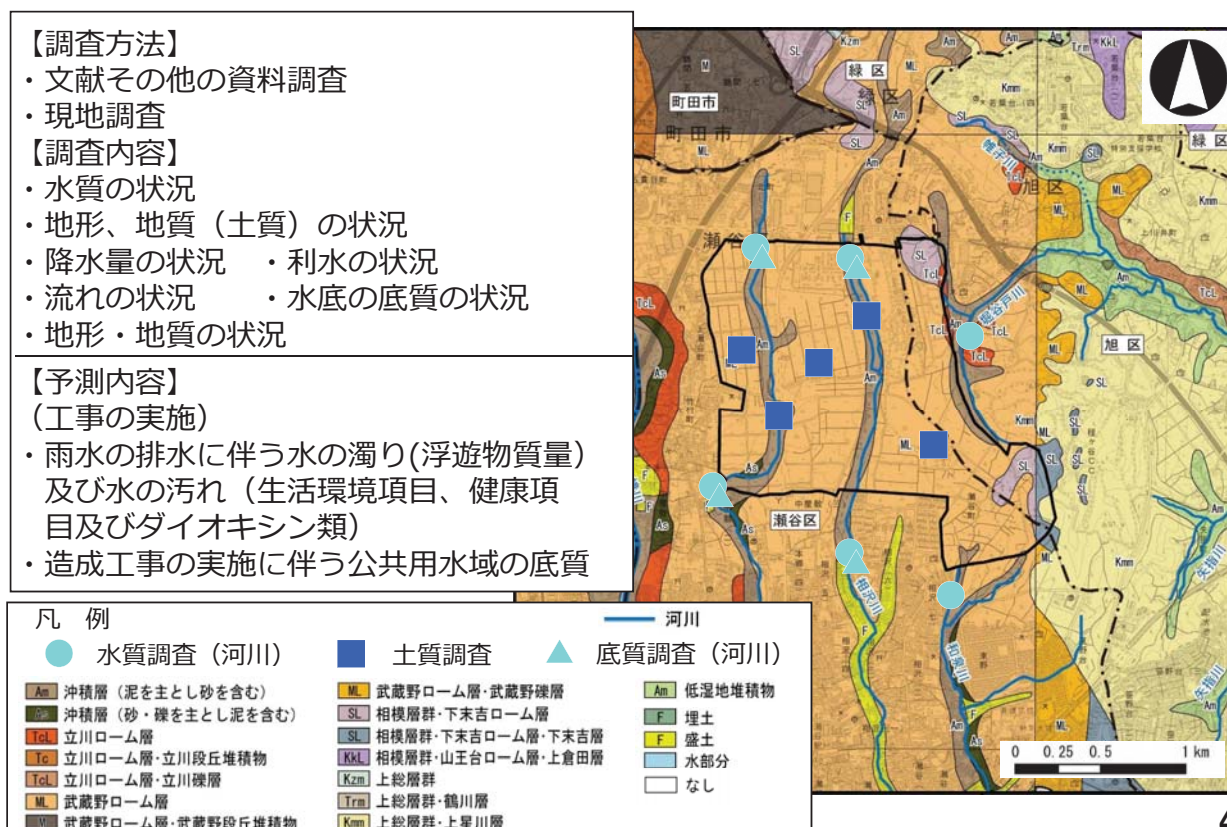
- 公定法（一般大気）、地上気象
- 公定法（沿道大気） ▲ 簡易法（沿道大気）
- ←→ 資材及び機械の運搬に用いる車両の主な運行ルート
- 関係車両の主な運行ルート



44



45



46

【調査方法】

- ・ 文献その他の資料調査
- ・ 現地調査

【調査内容】

- ・ 地下水の水質の状況
- ・ 地形、地質及び帯水層の状況
- ・ 降水量の状況 ・ 湧水の状況
- ・ 河川の形態及び流量の状況

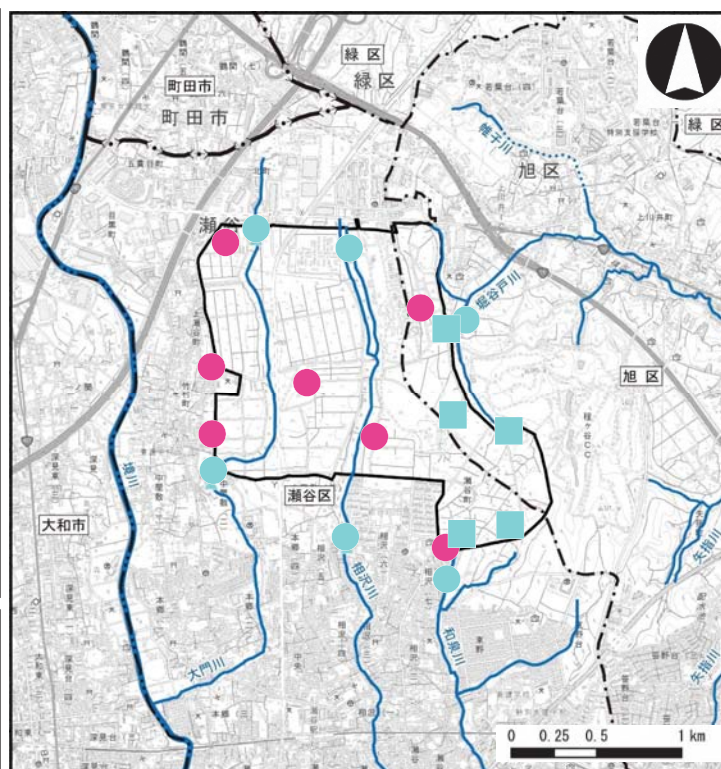
【予測内容】

(工事の実施)

- ・ 造成工事の実施に伴う湧水の流量
(土地又は工作物の存在及び供用)
- ・ 敷地の存在(土地の改変)に伴う
地下水の水質、湧水の流量並びに
河川の形態及び流量

凡 例

- 地質調査、地下水調査
- 水質調査(湧水)
- 河川の形態、流量調査地点
(水質調査地点と同じ)



47

地盤及び土壌

【調査方法】

- ・ 文献その他の資料調査・現地調査

【調査内容】

- ・ 過去の災害等の状況
- ・ 地盤の安定性の状況
- ・ 地歴の状況
- ・ 地形、地質の状況
- ・ 土壌汚染の状況

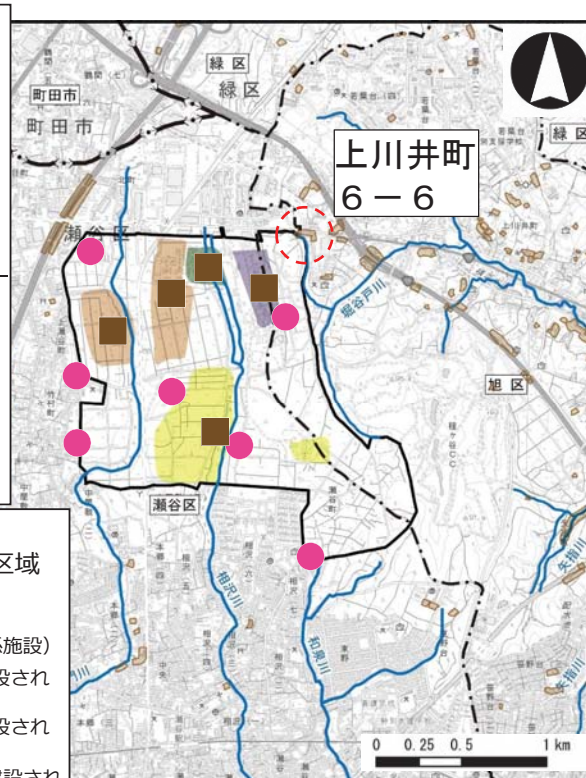
【予測内容】

(工事の実施)

- ・ 造成工事の実施に伴う土壌汚染
(土地又は工作物の存在及び供用)
- ・ 敷地の存在(土地の改変)に伴う
地盤の安定性

凡 例

- 地質調査
- 土砂災害警戒区域
- 土壌汚染調査地点
- 1941年7月24日時点で建造物があった範囲(旧日本海軍関係施設)
- 1941年7月24日～1946年2月15日の間に新たに建造物が建設された範囲(旧日本海軍関係施設)
- 1949年2月21日～1956年3月10日の間に新たに建造物が建設された範囲(米軍関係施設)
- 1956年3月10日～1961年10月17日の間に新たに建造物が建設された範囲(米軍関係施設)



48

動物（哺乳類）

方法書p. 7-51～54

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

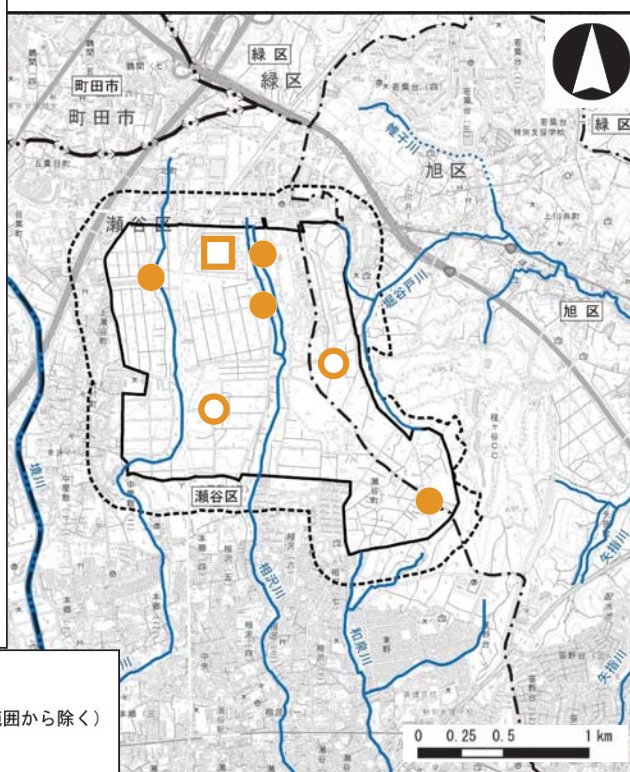
- ・脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況
- ・動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況
- ・注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

【予測内容】

- （工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用）
- ・造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）に伴う動物の重要な種への影響の程度

凡 例

- 哺乳類（トラップ）
- 哺乳類（無人撮影カメラ）
- 哺乳類（トラップ・無人撮影カメラ）
- 動植物調査範囲
（舗装地等人工変地は調査範囲から除く）



49

動物（一般鳥類）

方法書p. 7-51～53、55

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

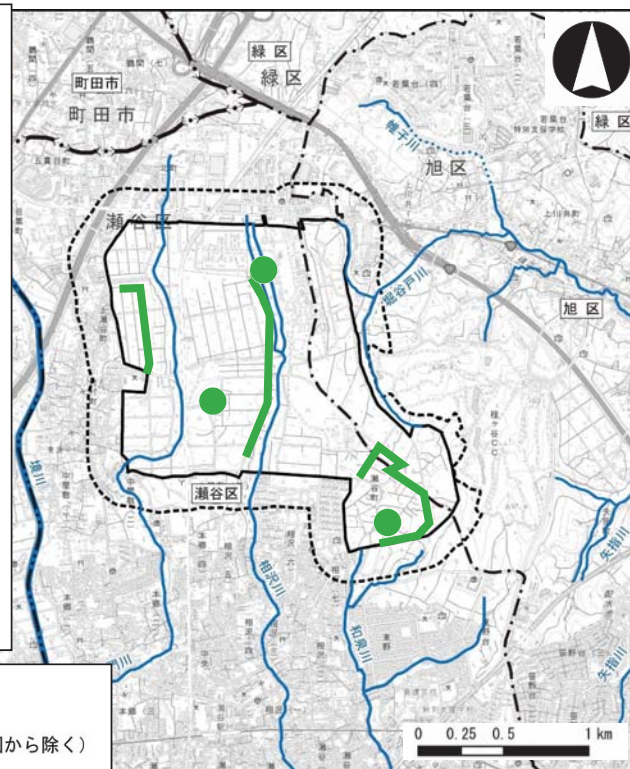
- ・脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況
- ・動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況
- ・注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

【予測内容】

- （工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用）
- ・造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）に伴う動物の重要な種への影響の程度

凡 例

- 一般鳥類（定点）
- 一般鳥類（ライン）
- 動植物調査範囲
（舗装地等人工変地は調査範囲から除く）



50

動物（猛禽類）

方法書p. 7-51～53、56

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

- ・脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況
- ・動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況
- ・注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

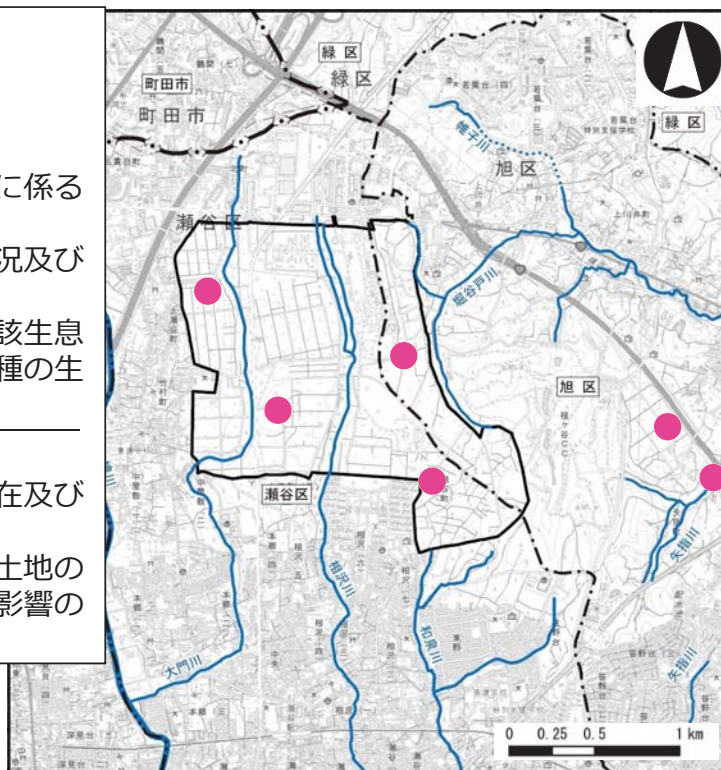
【予測内容】

（工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用）

- ・造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）に伴う動物の重要な種への影響の程度

凡 例

- 猛禽類（定点）



51

動物（昆虫類・クモ類）

方法書p. 7-51～53、57

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

- ・脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況
- ・動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況
- ・注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

【予測内容】

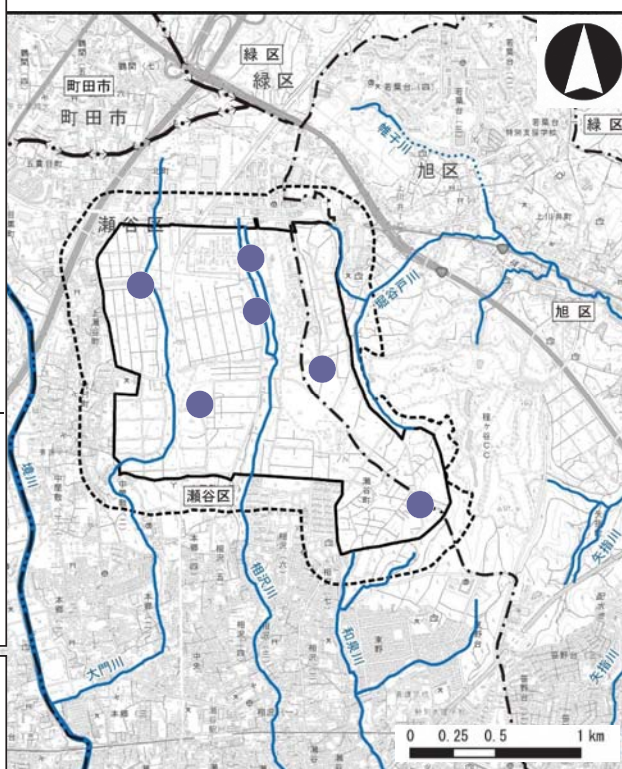
（工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用）

- ・造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）に伴う動物の重要な種への影響の程度

凡 例

----- 動植物調査範囲（舗装地等人工変地は調査範囲から除く）

- 昆虫類（トラップ）・クモ類



52

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

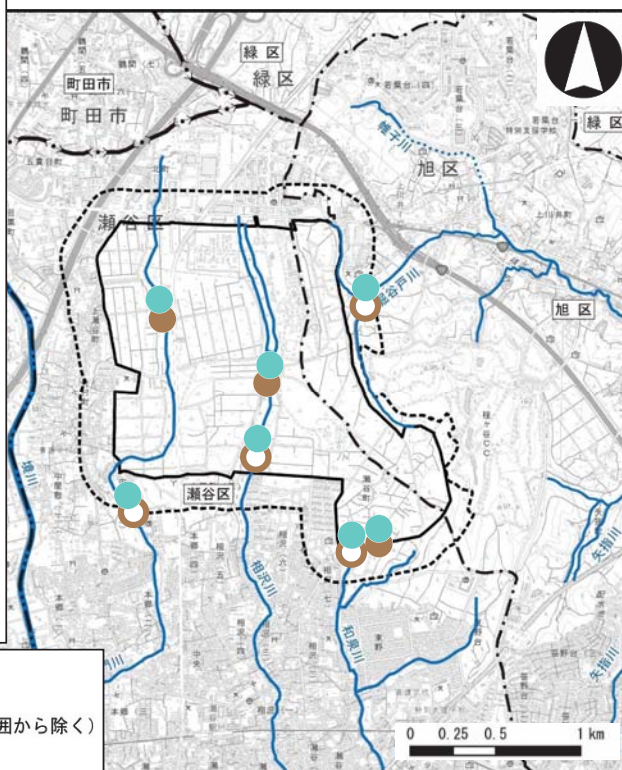
- ・脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況
- ・動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況
- ・注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

【予測内容】

- （工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用）
- ・造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）に伴う動物の重要な種への影響の程度

凡 例

- 魚類
- 底生動物（任意のみ）
- 底生動物（任意・定量）
- 動植物調査範囲（舗装地等人工変地は調査範囲から除く）



53

植物

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

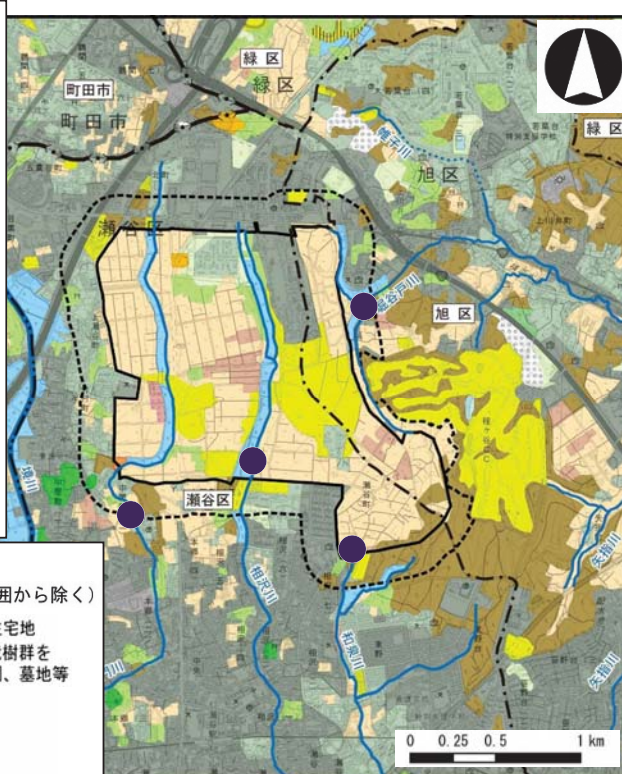
- ・種子植物その他主な植物に係る植物相及び植生の状況
- ・植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

【予測内容】

- （工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用）
- ・造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）による植物の重要な種、群落への影響の程度

凡 例

- 付着藻類（任意・定量）
- シラカシ群集
- シラカシ屋敷林
- コナラ群落（VII）
- クヌギコナラ群集
- 低木群落
- チガヤススキ群落
- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- 竹林
- ゴルフ場・芝地
- 牧草地
- 路傍・空地雑草群落
- 果樹園
- 常緑果樹園
- 畑雑草群落
- 水田雑草群落
- 市街地
- 緑の多い住宅地
- 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
- 工場地帯
- 造成地
- 開放水域
- 動植物調査範囲（舗装地等人工変地は調査範囲から除く）



54

【調査方法】

- ・ 文献その他の資料調査
- ・ 現地調査

【調査内容】

- ・ 動植物その他の自然環境に係る概況
- ・ 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況

【予測内容】

(工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用)

- ・ 造成工事の実施及び敷地の存在（土地の改変）による生態系への影響の程度

景観

【調査方法】

- ・ 文献その他の資料調査
- ・ 現地調査

【調査内容】

- ・ 主要な眺望点の状況
- ・ 景観資源の状況
- ・ 主要な眺望景観の状況

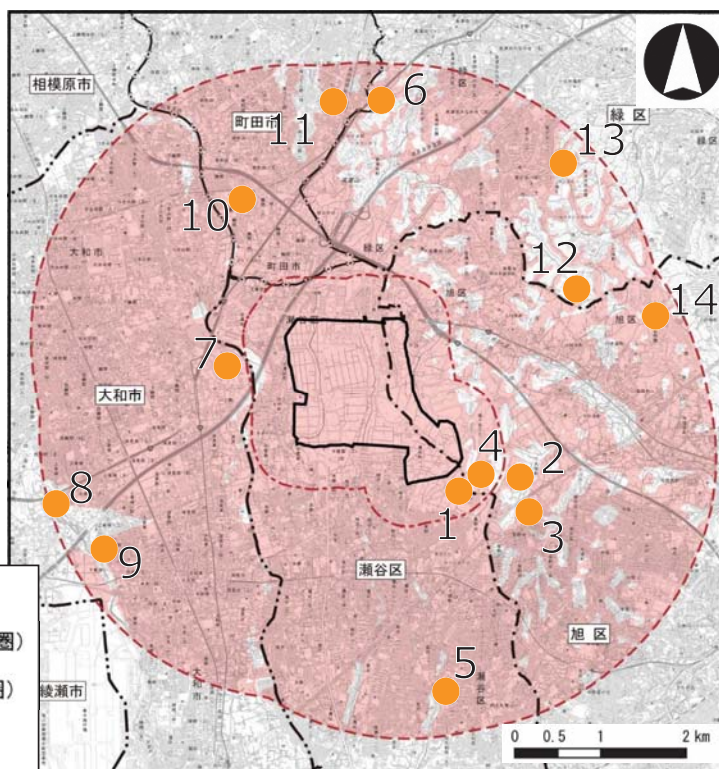
【予測内容】

(土地又は工作物の存在及び供用)

- ・ 敷地の存在（土地の改変）及び構造物の存在に伴う主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観

凡 例

- 〔 〕 調査範囲（対象事業実施区域から概ね3km圏）
- 〔 〕 近景域（対象事業実施区域から概ね500m圏）
- 主要な眺望景観の状況
- 富士山を眺望できる範囲



【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

- ・人と自然との触れ合いの活動の場の概況
- ・主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況

【予測内容】

(工事の実施)

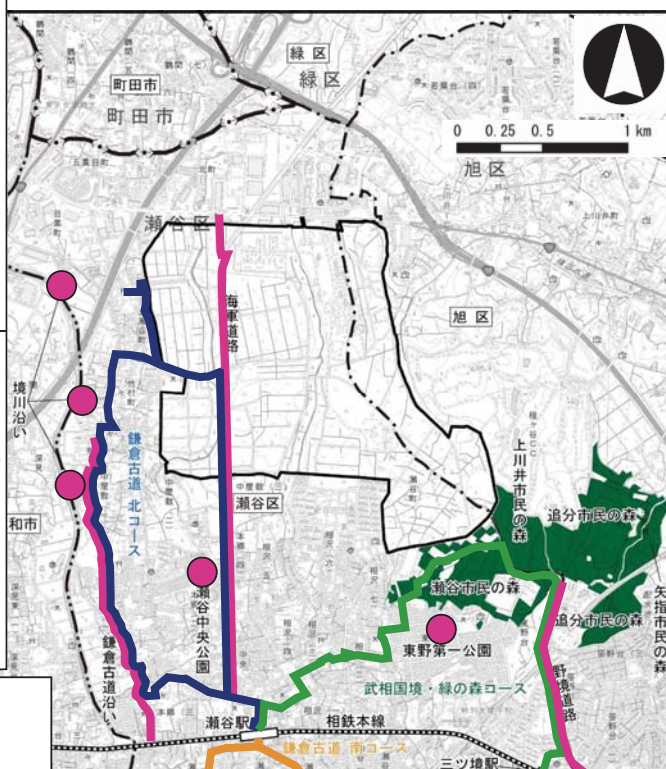
- ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場

(土地又は工作物の存在及び供用)

- ・敷地の存在（土地の改変）、構造物の存在及び関係車両の走行に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場

凡 例

- ハイキングコース
- 市民の森
- 桜の見どころスポット



57

廃棄物及び温室効果ガス

■ 廃棄物等

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査（現地踏査）

【調査内容】

- ・廃棄物及び建設発生土の処理処分の状況
- ・土地利用の状況

【予測内容】

(工事の実施)

- ・造成工事の実施に伴う建設工事に伴う副産物

■ 温室効果ガス

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査

【調査内容】

- ・温室効果ガスに係る原単位の把握
- ・排出抑制対策の実施状況

【予測内容】

(工事の実施)

- ・建設機械の稼働並びに資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う温室効果ガス
- (土地又は工作物の存在及び供用)
- ・関係車両の走行に伴う温室効果ガス

58

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

- ・日常生活圏等の状況
- ・地域交通の状況
- ・歩行者の状況

【予測内容】

(工事の実施)

- ・資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う交通混雑及び歩行者・自転車の安全
- (土地又は工作物の存在及び供用)
- ・関係車両の走行に伴う交通混雑及び歩行者・自転車の安全

凡 例



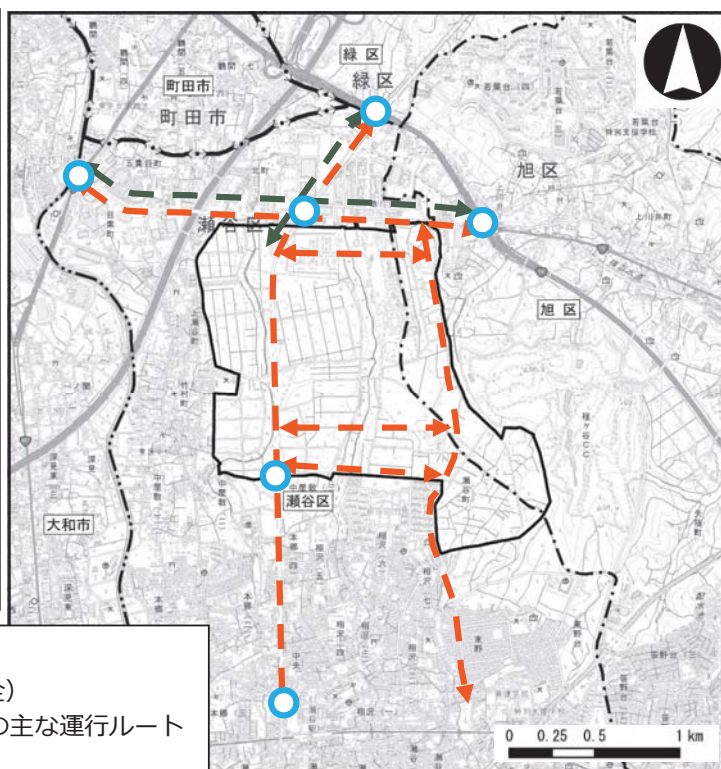
地域社会（交通混雑、歩行者の安全）



資材及び機械の運搬に用いる車両の主な運行ルート



関係車両の主な運行ルート



59

文化財等

【調査方法】

- ・文献その他の資料調査
- ・現地調査

【調査内容】

- ・埋蔵文化財包蔵地の状況
- ・関係法令、計画等

【予測内容】

(工事の実施)

- ・造成工事の実施に伴う文化財等

60

- 下記の環境要素については、都市計画対象事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮し、影響を予測

調査項目	
大気質	二酸化窒素/浮遊粒子状物質/粉じん等
騒音	
振動	
水質 (地下水の水質を除く)	水の濁り/水の汚れ
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに 主要な眺望景観
人と自然との触れ合いの 活動の場	主要な人と自然との触れ合いの 活動の場
地域社会	交通混雑/歩行者の安全

61

評価の手法

環境影響の回避、 低減に係る評価	調査及び予測の結果並びに環境保全措置の検討を行った場合にはその結果を踏まえ、本事業による影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、 <u>見解を明らかにすることにより評価</u>
国又は地方公共団体 による基準又は目標 との整合性の検討	環境影響評価項目ごとに、 <u>下記に示した環境目標との整合が図られているかどうかを明らかにすることにより評価</u> ・ 環境基準 ・ 法令等で定められている基準 ・ 国、神奈川県、横浜市が定めた計画、指針等 ・ 地球環境に著しい影響を及ぼさない水準

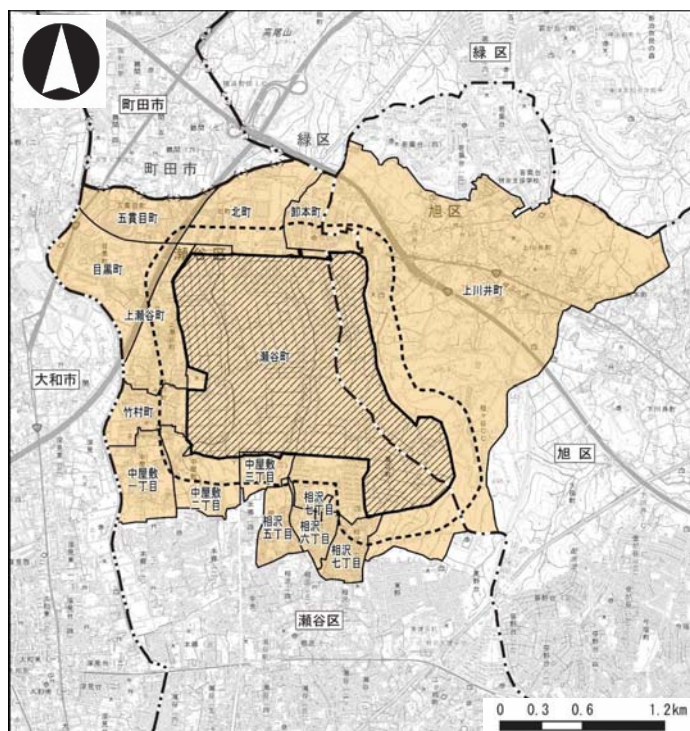
62

6 方法書対象地域

63

方法書対象地域

方法書p. 8-1、8-2



■ 方法書対象地域

【瀬谷区】瀬谷町、北町、五貫目町、目黒町、上瀬谷町、竹村町、中屋敷一丁目、中屋敷二丁目、中屋敷三丁目、卸本町、相沢五丁目、相沢六丁目、相沢七丁目

【旭区】上川井町

凡 例

-  対象事業実施区域
-  市界
-  都県界
-  区界
-  区域境界から200m圏
-  方法書対象地域

64

説明内容

- 環境影響評価制度について
- (仮称) 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
環境影響評価方法書の説明
- (仮称) 都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業
環境影響評価方法書の説明
- 縦覧及び意見書の提出について

65

(仮称) 都市高速鉄道上瀬谷ライン 整備事業の説明内容

- 1 都市計画対象事業の概要
- 2 事業スケジュール
- 3 環境影響要因の抽出及び
環境影響評価項目の選定
- 4 調査、予測及び評価の手法
- 5 方法書対象地域

66

1 都市計画対象事業の概要

67

都市計画対象事業の背景 ～基本計画の概要～

旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画

【令和2年3月】

まちづくりのテーマ

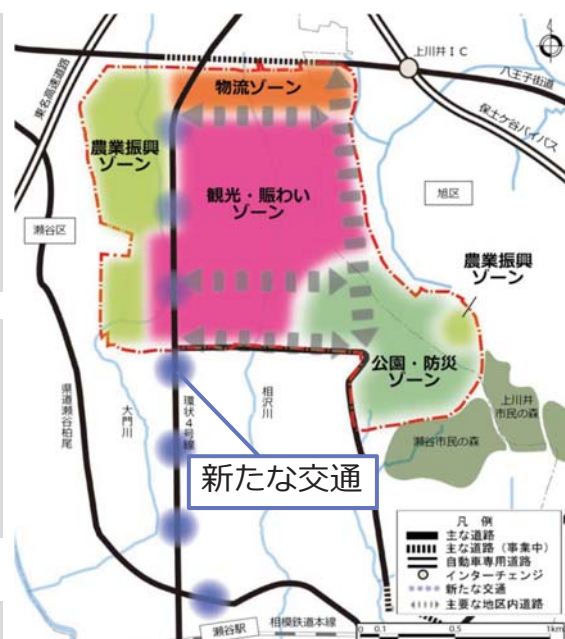
郊外部の新たな活性化拠点の形成

みらいまで広げる
ヒト・モノ・コト
の行き交うまち

<計画のポイント>

- ・人やものが行き交い、
- ・将来的には年間1,500万人が来訪する
- ・郊外部の新たな活性化拠点の形成

周辺交通需要の増加



4つの「土地利用ゾーン」

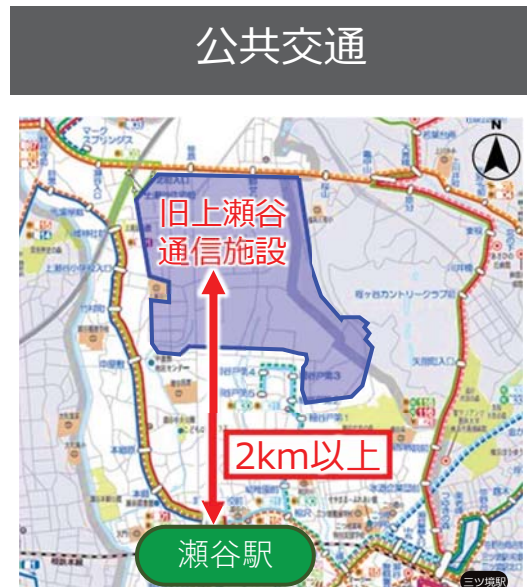
68

都市計画対象事業の背景 ～地域の現状～



出典：首都圏渋滞ボトルネック対策協議会資料に加筆
(国土交通省関東地方整備局、平成25年6月)

図 主要渋滞箇所



出典：横浜市都市整備局ホームページに加筆

図 バス路線図

○主要渋滞箇所が多数存在

○この地区と最寄りの瀬谷駅を結ぶバス路線はない

69

都市計画対象事業の目的

「（仮称）都市高速鉄道上瀬谷ライン」整備事業

来訪者の約4割から5割程度が
新たな交通を利用

輸送力・定時性・安定性の確保、
線形条件、建設費等を勘案

新交通システム（AGT）※

※桁上等に設置された走行路（床版）の上を、車両が案内
レールに従って走行するシステム



図 新交通システム（AGT）事例

70

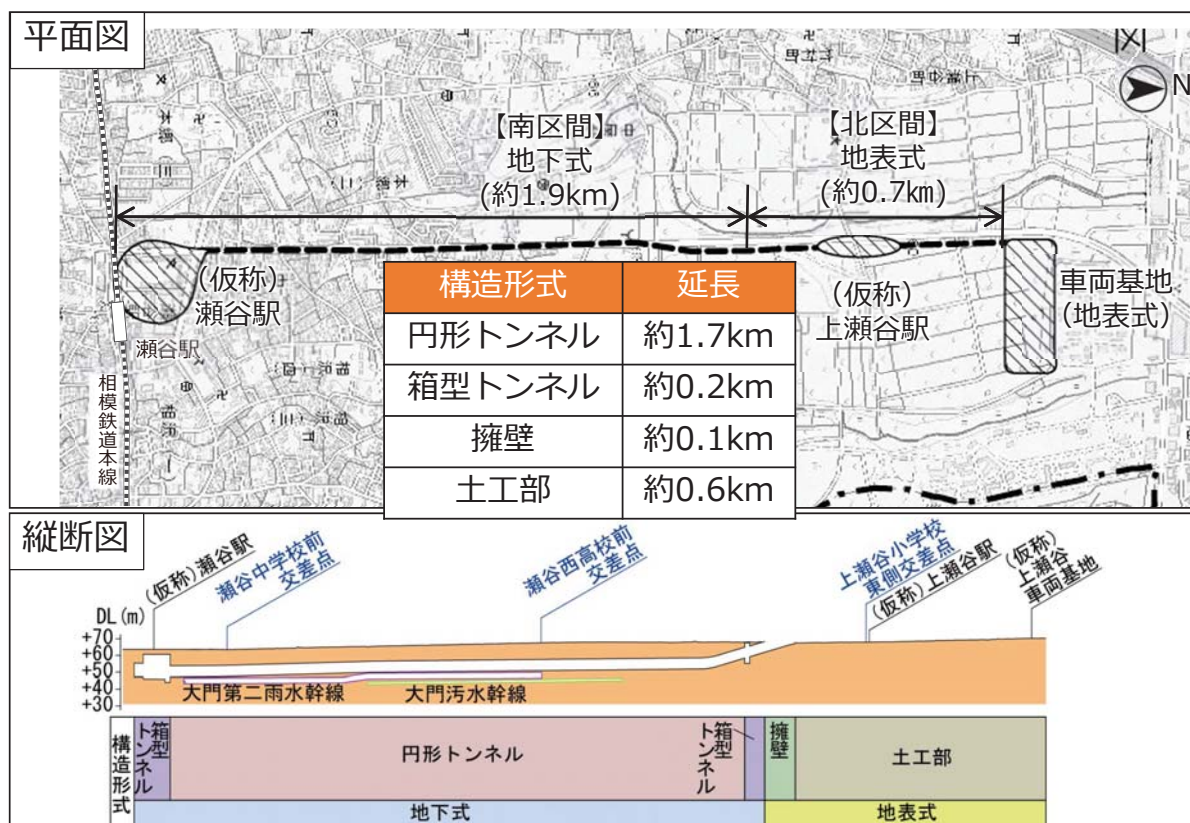
事業の内容

対象事業実施区域	項目	内容
	対象事業実施区域	起点：横浜市瀬谷区中央、 本郷三丁目、及び瀬谷四丁目 終点：横浜市瀬谷区瀬谷町
	延長	約2.6km
	構造形式	南区間：地下式（約1.9km） 北区間：地表式（約0.7km）
	駅施設	（仮称）瀬谷駅 （仮称）上瀬谷駅
	車両基地	（仮称）上瀬谷車両基地（約5.1ha）
	単線／複線の別	複線

71

都市計画対象事業の内容

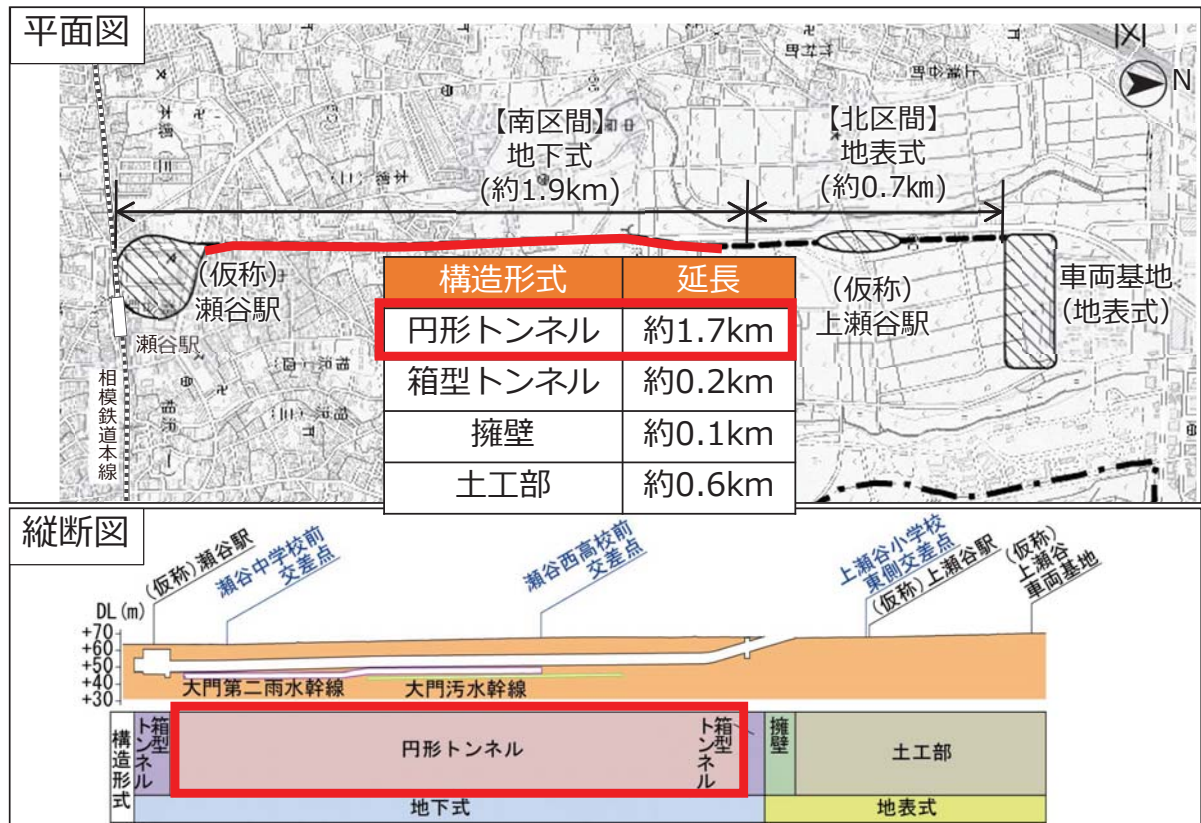
方法書p.2-13～2-14



72

都市計画対象事業の内容

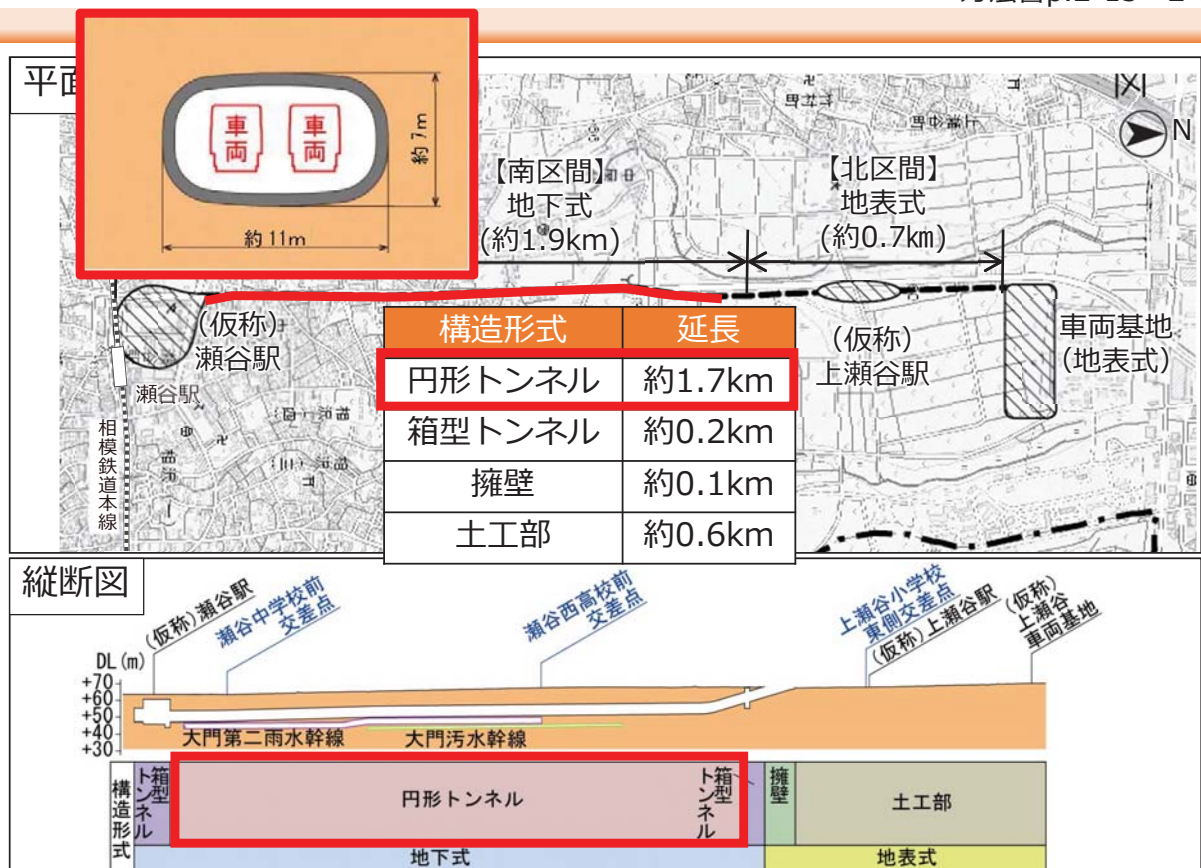
方法書p.2-13～2-14



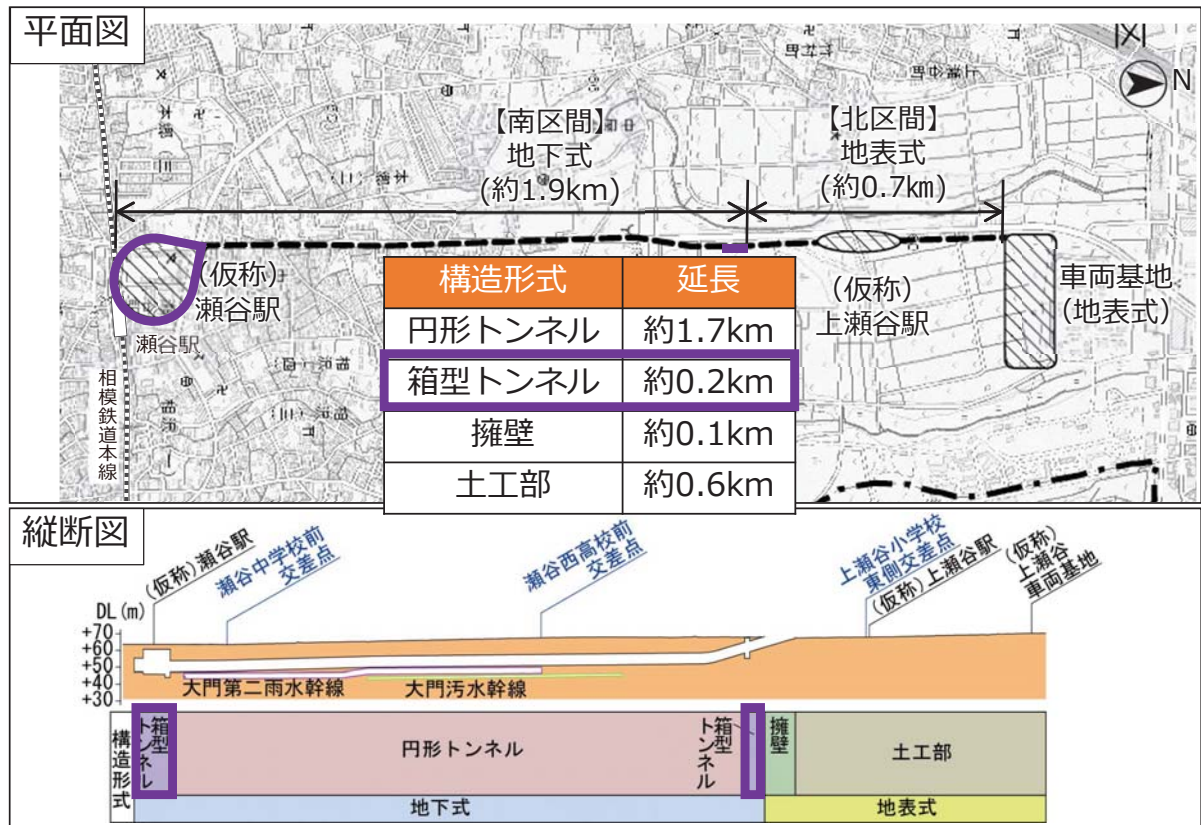
73

都市計画対象事業の内容

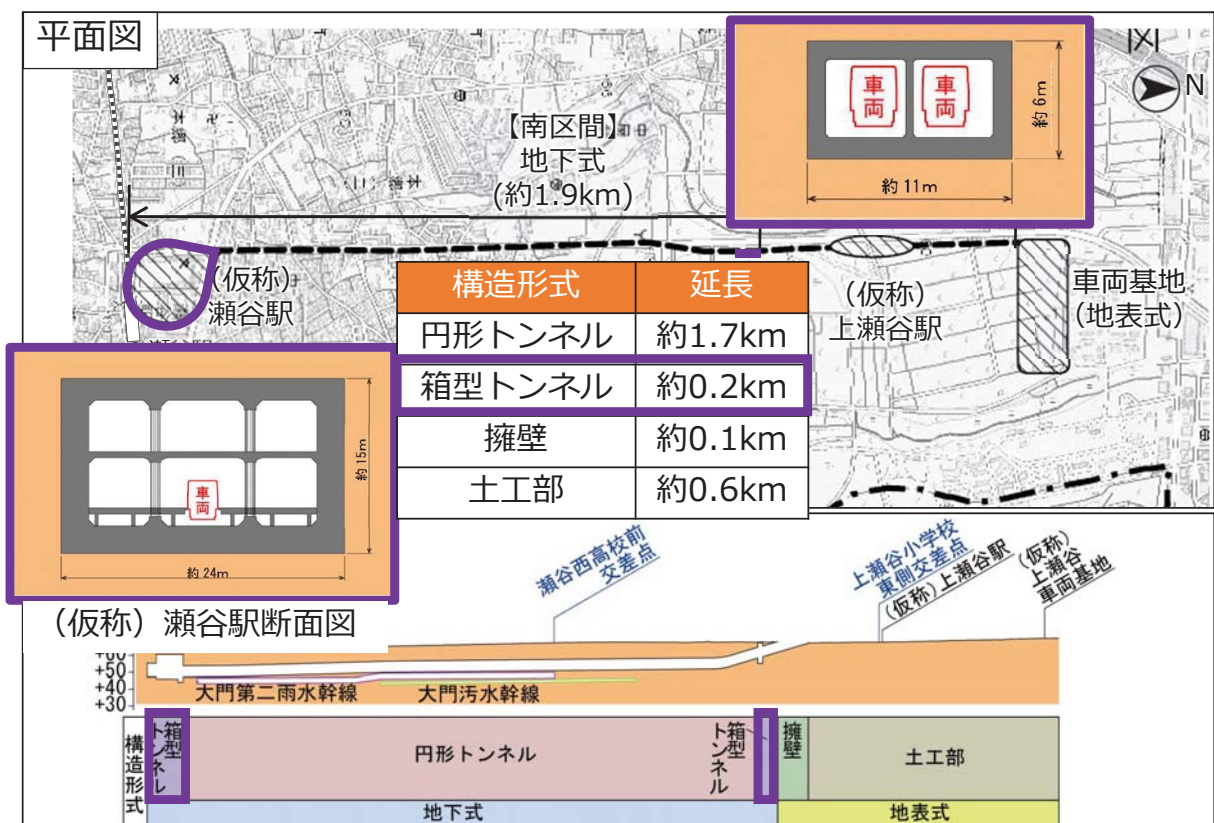
方法書p.2-13～2-14



74



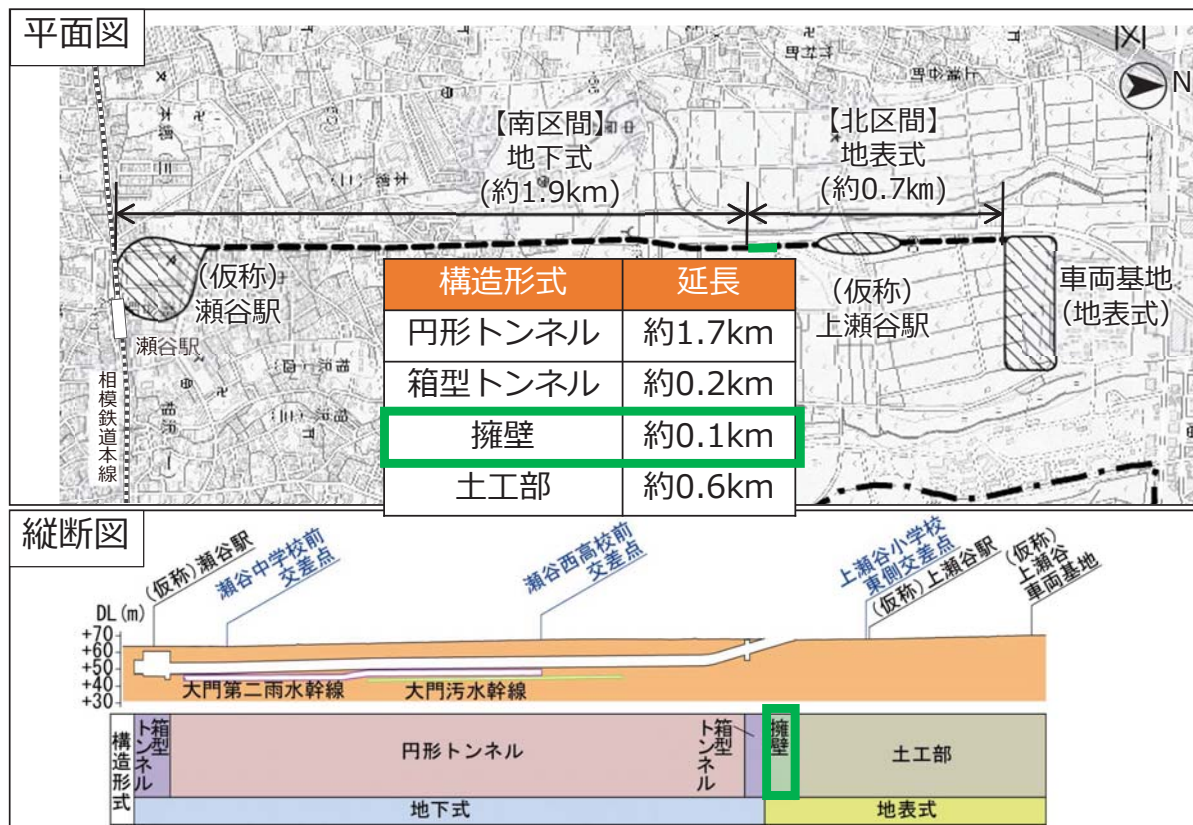
75



76

都市計画対象事業の内容

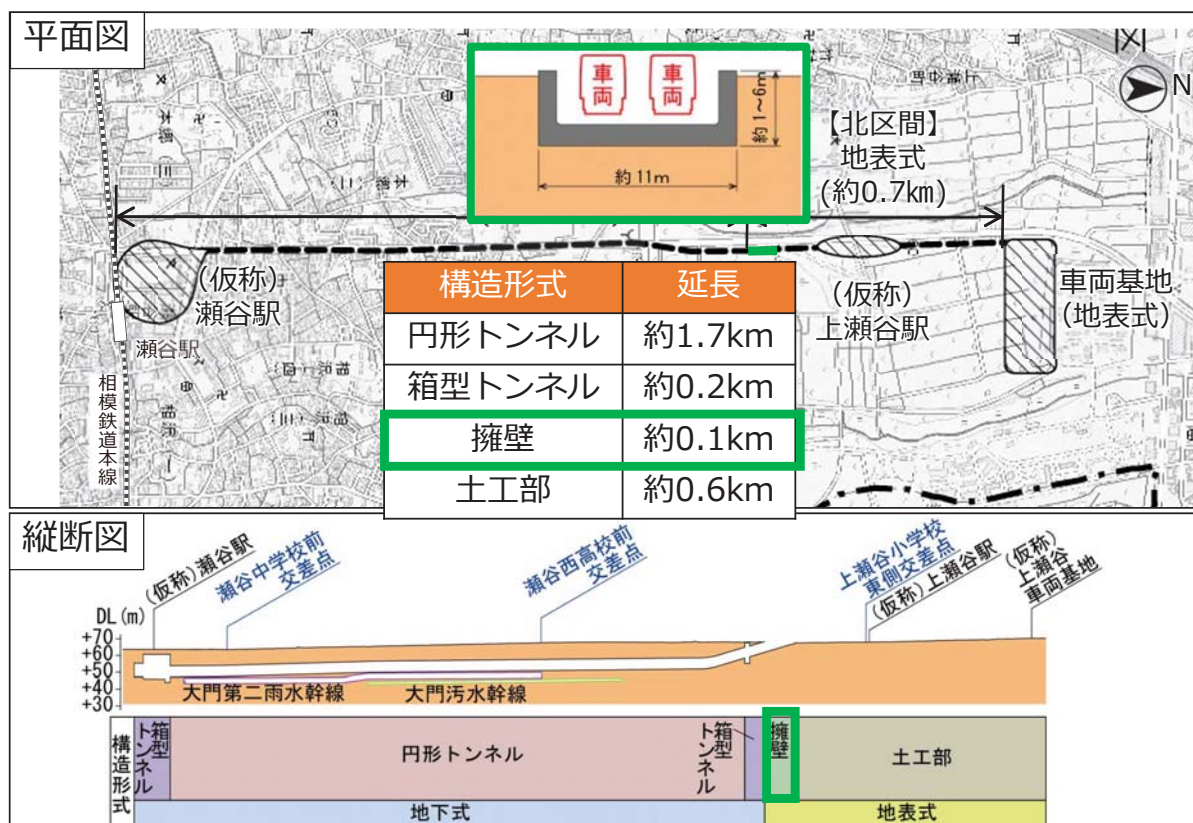
方法書p.2-13～2-14



77

都市計画対象事業の内容

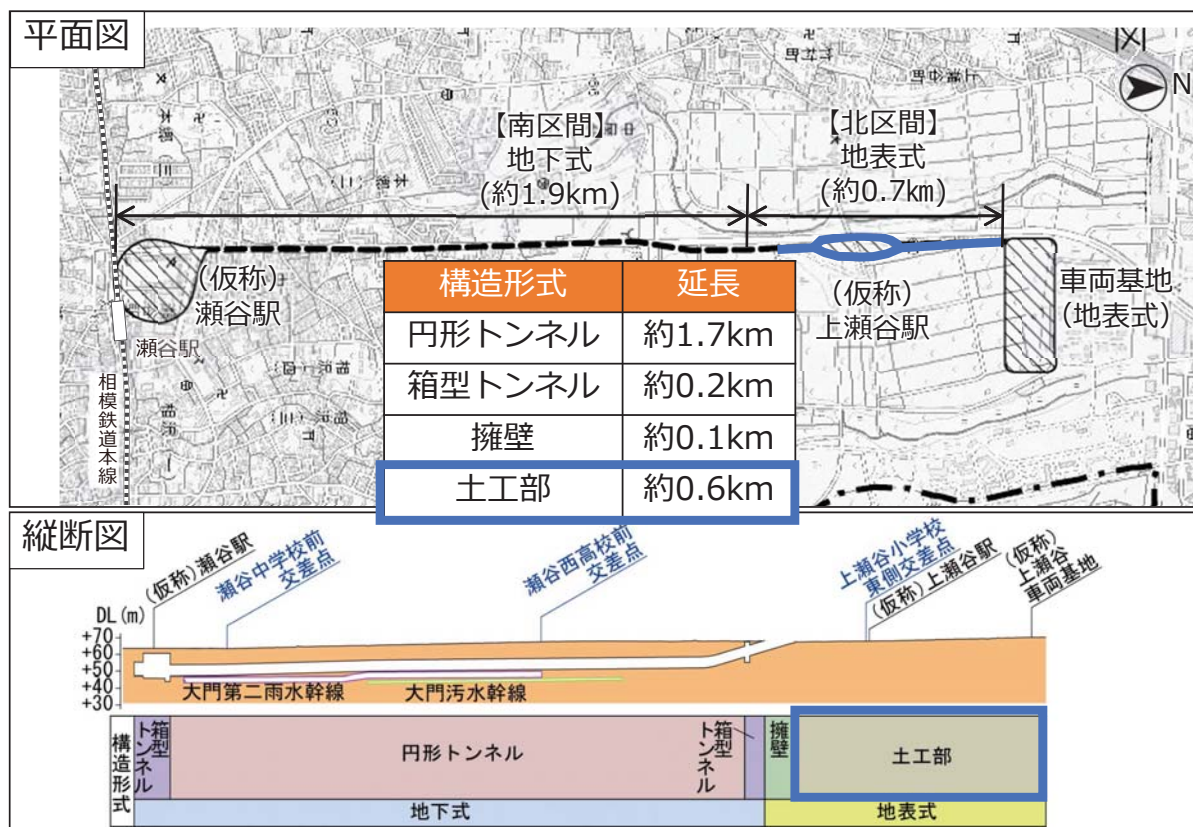
方法書p.2-13～2-14



78

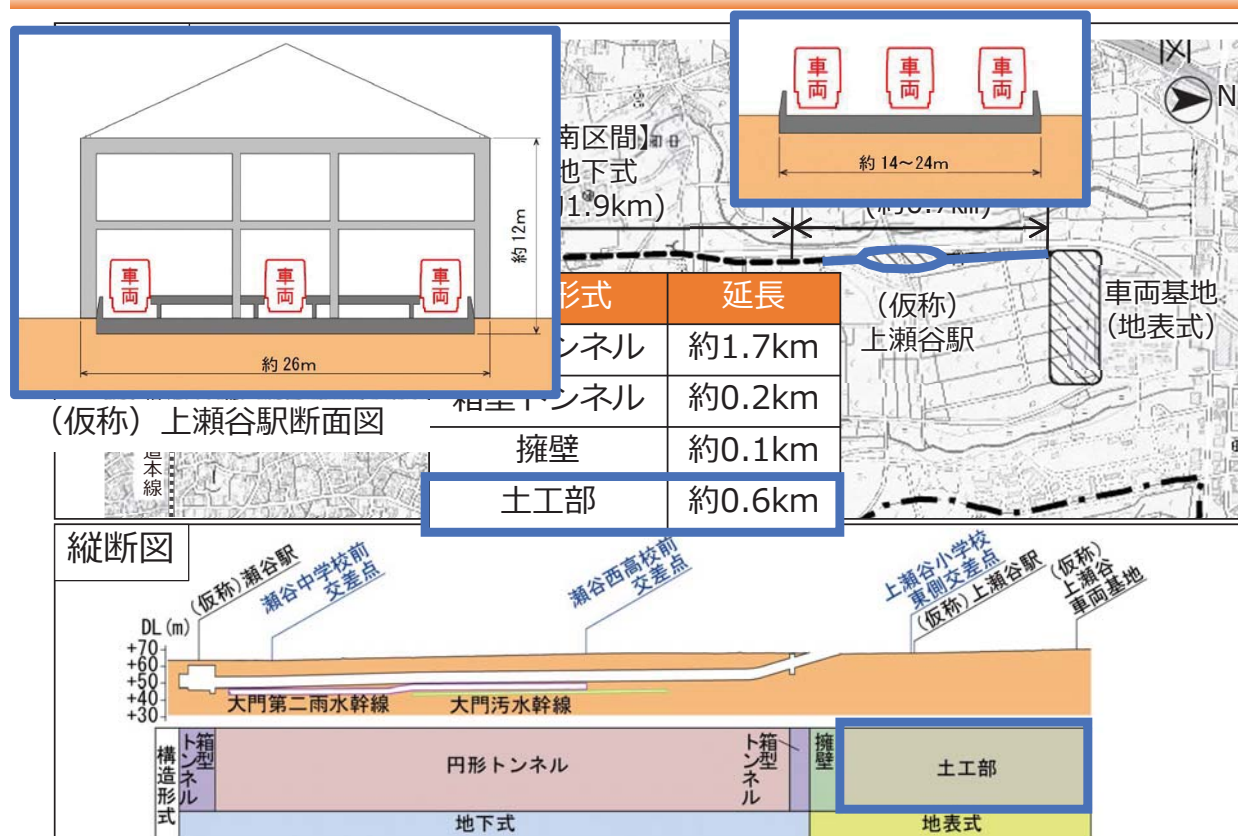
都市計画対象事業の内容

方法書p.2-13～2-14



都市計画対象事業の内容

方法書p.2-13~2-14



2 事業スケジュール

81

事業スケジュール



※1 都市計画や環境影響評価等の手続、国との協議等

※2 設計・施工等

82

3 環境影響要因の抽出及び 環境影響評価項目の選定

83

環境影響要因の抽出とその理由

区分		環境影響要因	抽出の理由
工 事 中		建設機械の稼働	・ 軌道施設の建設に伴い、建設機械が対象事業実施区域で稼働します。
		工事用車両の走行	・ 資機材の運搬や廃棄物等の搬出を行う車両が、周辺道路を運行します。
		切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	・ 工事の実施に伴い、地表を改変します。 ・ トンネル工事に伴い、地下を改変します。 ・ 工事の実施に伴い、既存の工作物を解体・撤去します。
供 用 時	施設の存在	軌道施設（地表式、地下式）の存在	・ 軌道施設が地上部、地下部にそれぞれ出現します。
	施設の供用	列車の走行（地上、地下）	・ 列車が地上、地下をそれぞれ走行します。
		駅舎の供用	・ 軌道施設利用者や駅係員等が、駅舎を使用します。

84

「環境影響要因と環境影響評価項目の関連表」

工事中

工事中

		環境影響要因		
環境影響評価項目		建設機械の稼働	工事用車両の走行	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去
	細目			
温室効果ガス		○	○	
生物多様性	動物／植物／生態系			○
水循環	地下水位			○
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物／建設発生土			○
大気質	大気汚染	○	○	
騒音		○	○	
振動		○	○	
地盤	地盤沈下			○
安全	地下埋設物			○
地域社会	交通混雑／歩行者の安全		○	
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場		○	○
文化財等	文化財等			○

85

「環境影響要因と環境影響評価項目の関連表」

供用時

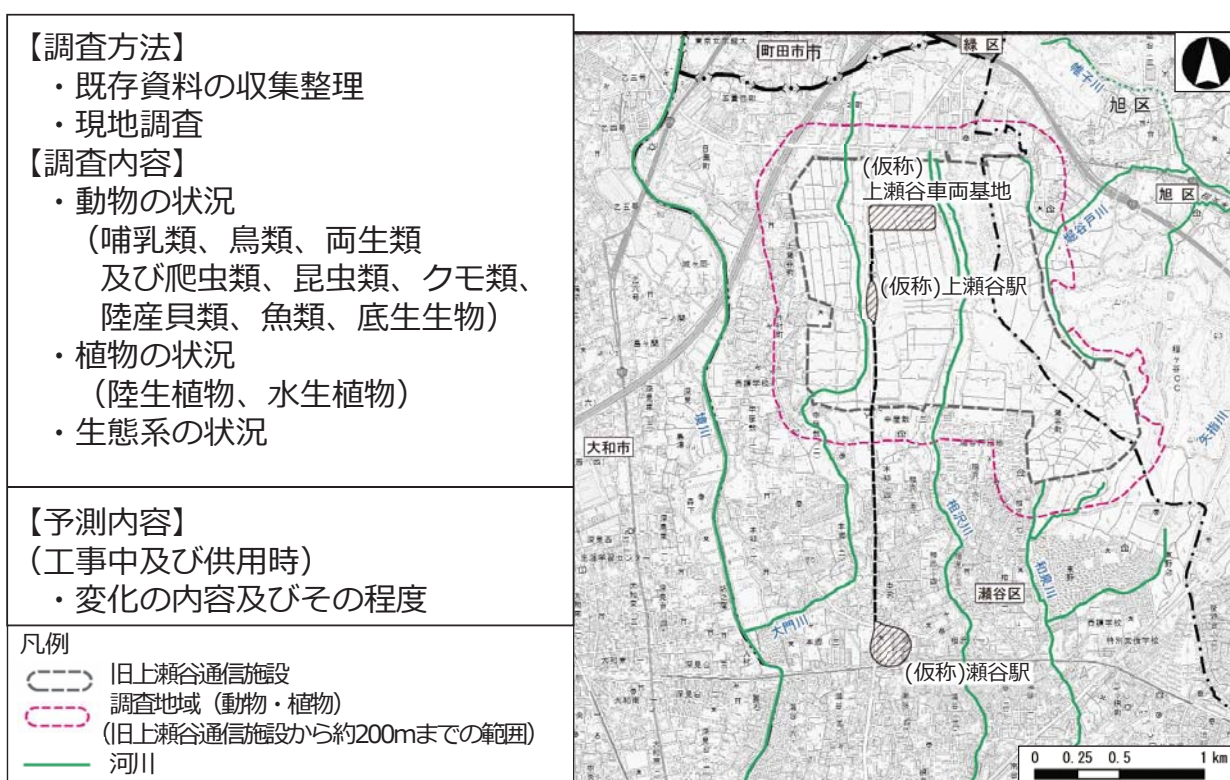
		環境影響要因				
環境影響評価項目		施設の存在		施設の供用		
	細目	軌道施設 (地表式) の存在	軌道施設 (地下式) の存在	列車の 走行 (地上)	列車の 走行 (地下)	駅舎の 供用
生物多様性	動物／植物／生態系	○				
水循環	地下水位		○			
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物／産業廃棄物					○
騒音				○		
振動				○	○	
地盤	地盤沈下		○			
景観		○				
触れ合い活動の場		○				

86

4 調査、予測及び評価の手法

87

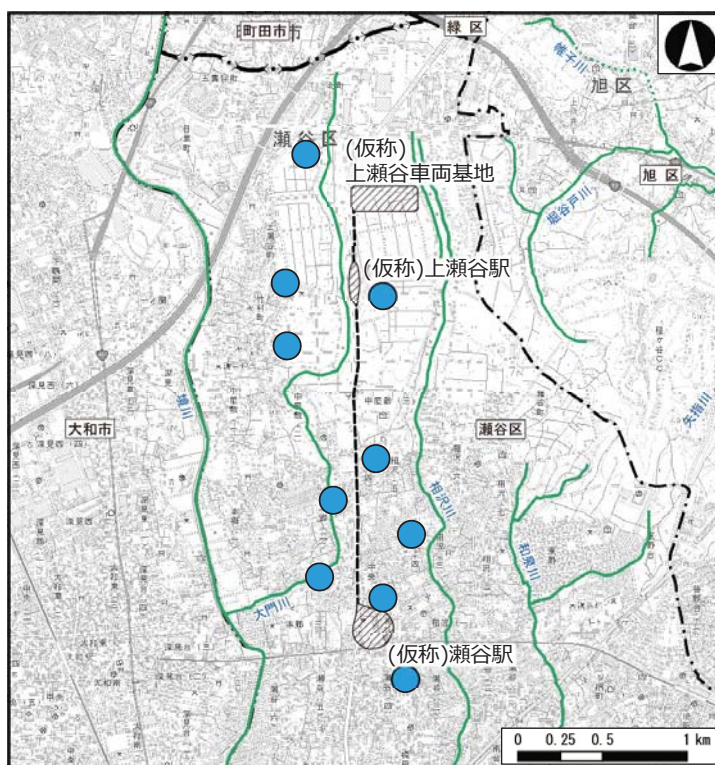
調査・予測の内容（動物、植物、生態系）



88

調査・予測の内容（地下水位、地盤）

【調査方法】 ・ 既存資料の収集整理 ・ 現地調査 【調査内容】 ・ 地下水の状況 ・ 地盤変状の状況 ・ 地質の状況	
【予測内容】 (工事中及び供用時) ・ 地下水位の変化 ・ 地盤の影響の程度	
凡例  河川  調査地点 (地下水位・地質)	



89

調査・予測の内容（大気質）

【調査方法】

- ・既存資料の収集整理
- ・現地調査

【調査内容】

- ・大気質の状況
(窒素酸化物、浮遊粒子状物質)
- ・気象の状況
- ・自動車断面交通量

【予測内容】

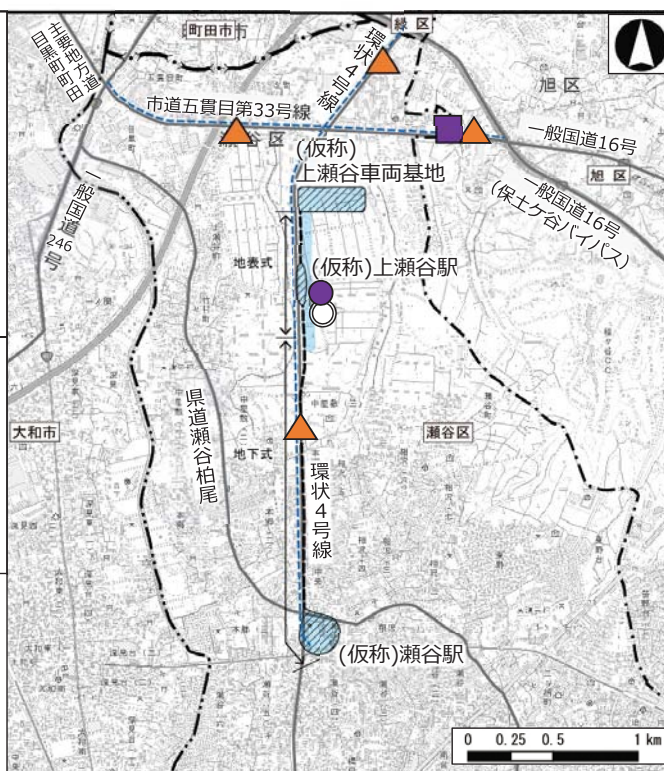
(工事中)

- ・建設機械の稼働に伴う大気質濃度
- ・工事用車両の走行に伴う大気質濃度

※本事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮

凡例

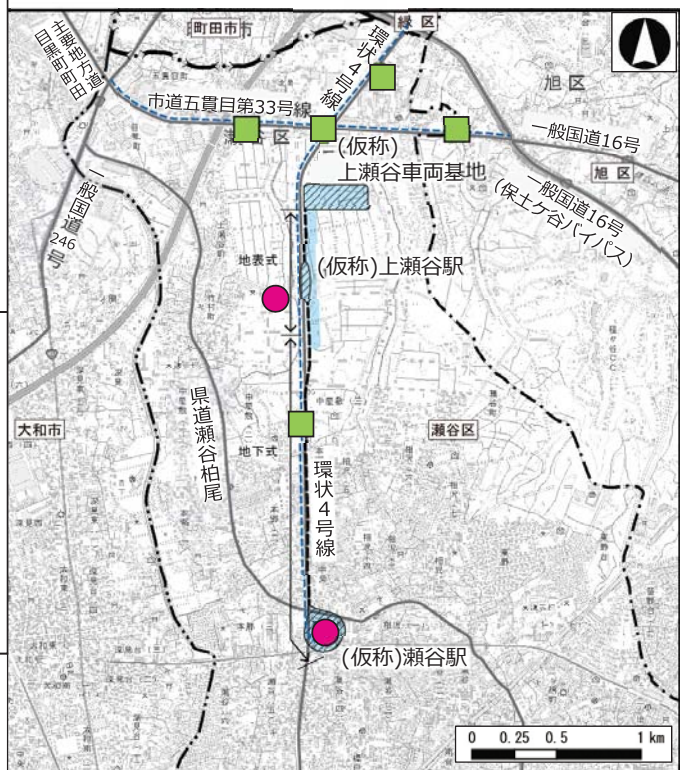
- 工事用車両の走行ルート
- 調査地点（公定法（一般大気））
- 調査地点（公定法（沿道大気））
- ▲ 調査地点（簡易法（沿道大気））
- 調査地点（地上気象）



90

調査・予測の内容（騒音、振動）

【調査方法】 - 既存資料の収集整理 - 現地調査
【調査内容】 - 一般環境騒音・振動 - 道路交通騒音・振動 - 地盤卓越振動数 - 自動車断面交通量
【予測内容】 （工事中） - 建設機械の稼働に伴う騒音・振動 - 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音・振動 （供用時） - 列車の走行に伴う鉄道騒音・振動 ※本事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮
凡例 --- 工事用車両の走行ルート ■ 調査地点（一般環境騒音・振動） ■ 調査地点（道路交通騒音・振動、自動車断面交通量） ■ 施工ヤード



91

調査・予測の内容（交通混雑、歩行者の安全）

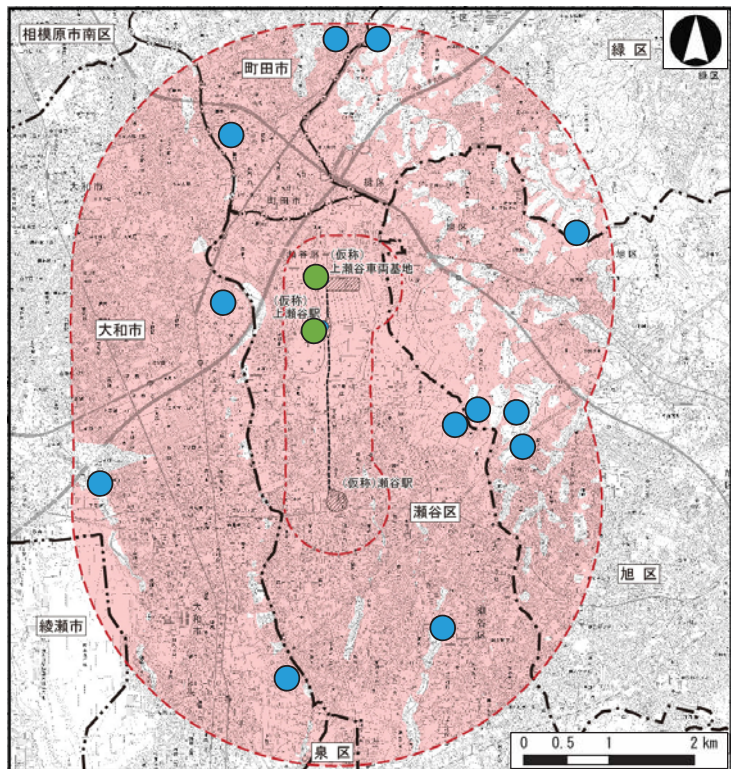
【調査方法】 - 既存資料の収集整理 - 現地調査
【調査内容】 - 自動車交通量 - 渋滞の状況 - 信号現示 - 歩行者・自転車交通量
【予測内容】 （工事中） 工事用車両の走行に伴う交通混雑、歩行者・自転車の安全 ※本事業の予測時期において、その時期の他事業の影響も必要に応じて考慮
凡例 --- 工事用車両の走行ルート ■ 調査地点 ○ 自動車交通量、歩行者・自転車交通量 ● 歩行者・自転車交通量 ■ 施工ヤード



92

調査・予測の内容（景観）

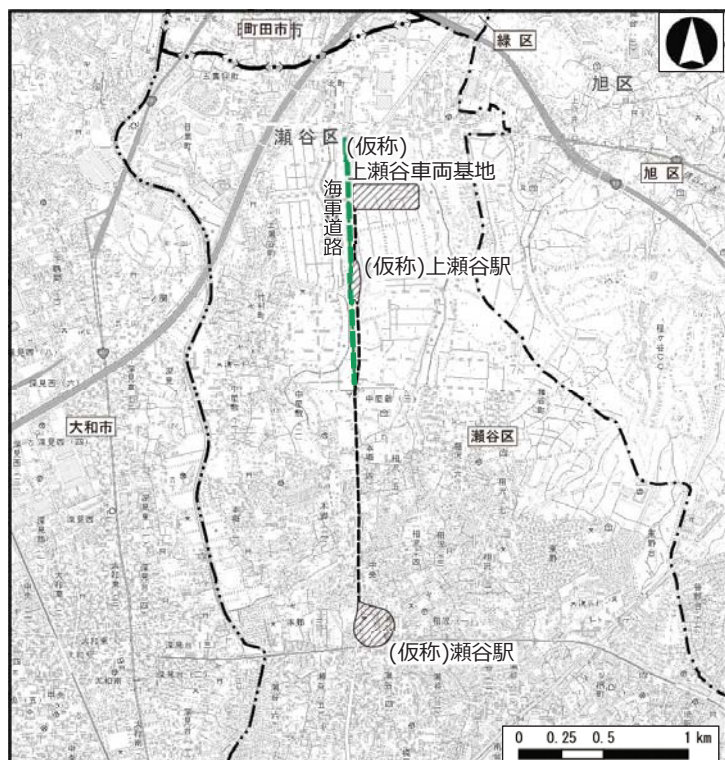
【調査方法】 ・ 既存資料の収集整理 ・ 現地調査 【調査内容】 ・ 地域景観の特性 ・ 主要な景観資源の状況 ・ 主要な眺望地点からの景観
【予測内容】 （供用時） ・ 景観の状況 ・ 景観資源への影響 ※本事業の予測時期において、その時期の 他事業の影響も必要に応じて考慮
凡例 - 調査範囲 （対象事業実施区域から概ね3km圏） - 近景域 （対象事業実施区域から概ね500m圏） - 富士山を眺望できる範囲 - 調査地点（遠景） - 調査地点（近景）



93

調査・予測の内容（触れ合い活動の場）

【調査方法】 ・ 既存資料の収集整理 ・ 現地踏査 【調査内容】 ・ 触れ合い活動の場の状況 （名称、位置、規模、区域、 及び分布状況、活動特性、 利用状況、経路、交通手段）
【予測内容】 （工事中及び供用時） ・ 主要な触れ合い活動の場 への影響 ※本事業の予測時期において、その時期の 他事業の影響も必要に応じて考慮
凡例 調査地域 （触れ合い活動の場）



94

調査・予測の内容（その他の項目）

調査項目：温室効果ガス、廃棄物・建設発生土、地下埋設物、文化財等

【調査方法】

- ・既存資料の収集整理及び現地踏査

【調査内容】

- ・温室効果ガスに係る原単位の把握、排出抑制対策の実施状況
- ・廃棄物及び建設発生土の処理処分の状況
- ・地下埋設物の状況
- ・埋蔵文化財包蔵地の位置又は範囲、内容及び分布状況

【予測内容】

（工事中）

- ・温室効果ガスの排出量
- ・産業廃棄物、建設発生土の発生量及び処分量
- ・地下埋設物への影響
- ・埋蔵文化財包蔵地の改変の程度

（供用時）

- ・一般廃棄物、産業廃棄物の発生量及び処分量

95

評価の手法

環境の保全等に関して、

- ・横浜市が定めた計画及び指針等の中で設定している目標
- ・法令等で定められている基準
- ・地球環境に著しい影響を及ぼさない水準

等



「環境保全目標」を設定

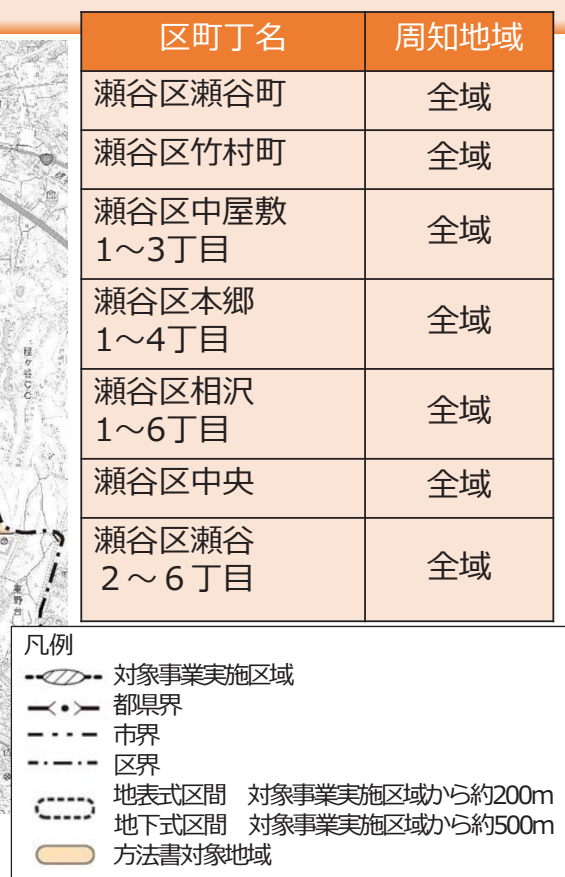
「環境保全目標」と予測結果との対比により、評価

※結果等については、今後実施する準備書にて、お示しいたします。

96

5 方法書対象地域

方法書対象地域

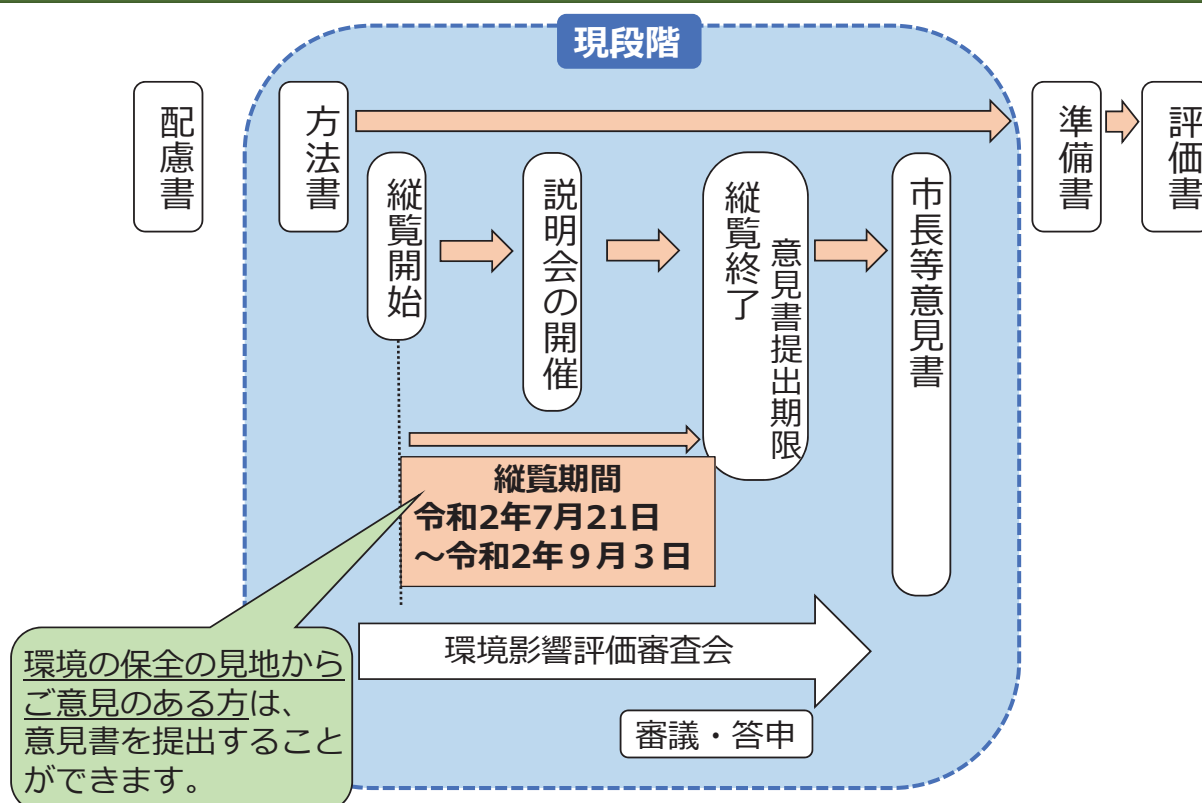


説明内容

- 環境影響評価制度について
- (仮称) 旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業
環境影響評価方法書の説明
- (仮称) 都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業
環境影響評価方法書の説明
- 縦覧及び意見書の提出について

99

方法書の縦覧、閲覧および意見書の提出について



100

縦覧

期 間

令和2年7月21日（火） から

令和2年9月3日（木） まで（土・日・祝日を除く）

場 所

- ①建築局都市計画課
- ②横浜市役所市民情報センター
- ③瀬谷区役所区政推進課広報相談係
- ④旭区役所区政推進課広報相談係(区画整理事業のみ)

時 間

午前 8 時45分～午後 5 時（①は午後 5 時 1 5 分まで）

101

閲覧

期 間

令和2年7月21日（火） から

場 所

- ①中央図書館
- ②瀬谷図書館
- ③旭図書館(区画整理事業のみ)

市ホームページでの公開

【区画整理事業】

上瀬谷 区画整理 方法書

Q 検索

【交通整備事業】

上瀬谷ライン 方法書

Q 検索

102

提出期限

令和2年9月3日（木）まで
（窓口での受付は、土・日・祝日を除く）

提出方法 ①または②の方法で提出してください。

① **意見書用紙にご記入の上、以下の提出先へ
持参または郵送**

【区画整理事業】 建築局都市計画課
【交通整備事業】 環境創造局環境影響評価課

※意見書用紙は、縦覧窓口で配布しています。

②横浜市ホームページから**電子申請**で提出

103

ご清聴ありがとうございました